

令和6年3月

少年警察ボランティアのあり方に関する
調査報告書Ⅱ

公益社団法人 全国少年警察ボランティア協会

1 目的

全国の少年警察ボランティアを対象として、活動の現状及び課題等について調査を行い、今後のボランティア活動のあり方に資することを目的とする

2 方法

あらかじめ作成した自記式アンケート調査票を郵送により配布・回収を行った。

3 調査期間

2023年8月18日から9月11日までの間

4 調査対象

都道府県の少年補導員・少年警察協助手、少年指導委員 300名（各都道府県5～10部）に配布し270名分を回収した（回収率90%）。

5 主なアンケート調査項目

- (1) 回答者の基本属性（性別、年齢、職業等）
- (2) 街頭補導の活動状況
- (3) 街頭補導以外の非行防止活動
- (4) 少年警察ボランティア活動に対する意識や意見等

6 調査結果の目次

<調査結果の要約>	2
第Ⅰ部 アンケート調査結果の概要	3～14
調査用紙	15～19
第Ⅱ部 資料編	
アンケート調査結果データ(単純集計)	20～24
アンケート調査結果データ(クロス集計)	25～47
自由記述	48～79

注) 第Ⅰ部において前回2004年調査と同一項目は、(〇〇%(今回調査分)・〇〇%(前回調査分))と数字を併記した。

<調査結果の要約>

(1) 基本属性

都道府県の少年補導員・少年警察協助手員、少年指導委員 300 名を対象に配布し 270 名分を回収した。

(2) 過去 1 年間の街頭補導の活動状況

参加回数は、10 回未満(48.1%)、10～20 回未満(31.7%)で全体の 79.8%を占め、地域での街頭補導への参加割合は、6 割以上(53.3%)が最も多かった。また、教員やPTAとの合同補導は、いずれも 3 割以下が 70%程度を占めており低調であった。1 回あたりの実施時間は、1 時間～2 時間(60.7%・69.4%)が多く、1 時間未満(31.1%・5.2%)、2 時間～3 時間未満(5.2%・22.5%)の順で、前回調査より実施時間が短くなる傾向があった。実施時間帯は、夕方が 81.9%で目立って多く、実施場所は、駅前や繁華街、祭りやイベントの会場がいずれも 7 割を超えて多かった。1 回の活動での少年への声かけ人数は、1～5 人が今回 55.2%前回 69.8%、ほとんどないが今回 27.0%前回 12.9%であり、対象となる少年が減少していることがうかがえた。

(3) 街頭補導活動以外の非行防止活動

参加回数の多かったものは、社会参加活動では 1～10 回(67.0%)、環境浄化活動では 1～10 回(26.7%)、非行少年への継続的支援・補導では 1～10 回(11.1%)で、環境浄化活動・非行少年への継続的支援・補導は、活動なしが過半数を超えていた。今後行ってみたい非行防止活動では、地域で子どもに対する声かけ運動(44.8%)、現在の場所だけでなく別の場所で活動(35.2%)、非行少年・不良行為少年の居場所作り(31.9%)が上位で、また、年代別では希望する活動内容に多少の違いがみられ、男女別では居場所づくりが男性<女性、現在の補導時間帯以外の補導活動が男性>女性で男女差がみられた。

(4) 少年警察ボランティア活動に対する意識や意見等

活動を始めたきっかけは、先輩の補導員に誘われたが 54.8%、警察官・警察職員に頼まれたが 30.7%が多かった。就任時の気持ちは、地域や社会に貢献できるが 77.4%と多く、次いで仕事やこれまでの経験を生かせる 34.8%であった。活動で感じるやりがいや喜び、達成感は、社会や地域、制度への理解が深まること 61.9%、仲間ができること 58.5%、ボランティア以外の人の輪が広がること 44.8%の順に多く、多様な項目が挙げられていた。なお、年代別、男女別での差が見られる項目はほとんどなかった。活動を通じた悩みや不安、負担や不満は、ボランティア同士の交流の少なさ 31.1%、活動時間の確保 26.3%、研修の機会を増やして欲しい 23.3%の順で、多様な項目が挙げられていた。年代別では、60 歳代・70 歳代がボランティア同士の交流の少なさがトップに挙げられ、各年代を通じて活動時間の確保、仕事との両立が挙げられていた。男女別では、ボランティア同士の交流の少なさは男女共通してトップだが、2 位以下の項目では、男性が活動時間の確保、相談者や相手方との接し方であったが、女性は研修機会の増加、制度の理解不足が挙げられ、男女差が見られた。

第 I 部 アンケート調査結果の概要

1 回答者の基本属性

(1)性別

回答者の性別は、男性 202 名（74.8%・73.6%）、女性 63 名（23.3%・26.2%）で、回答なし 5 名（1.9%）であった。なお、2004 年度は男性 815 名、女性 290 名であった

(2)年代

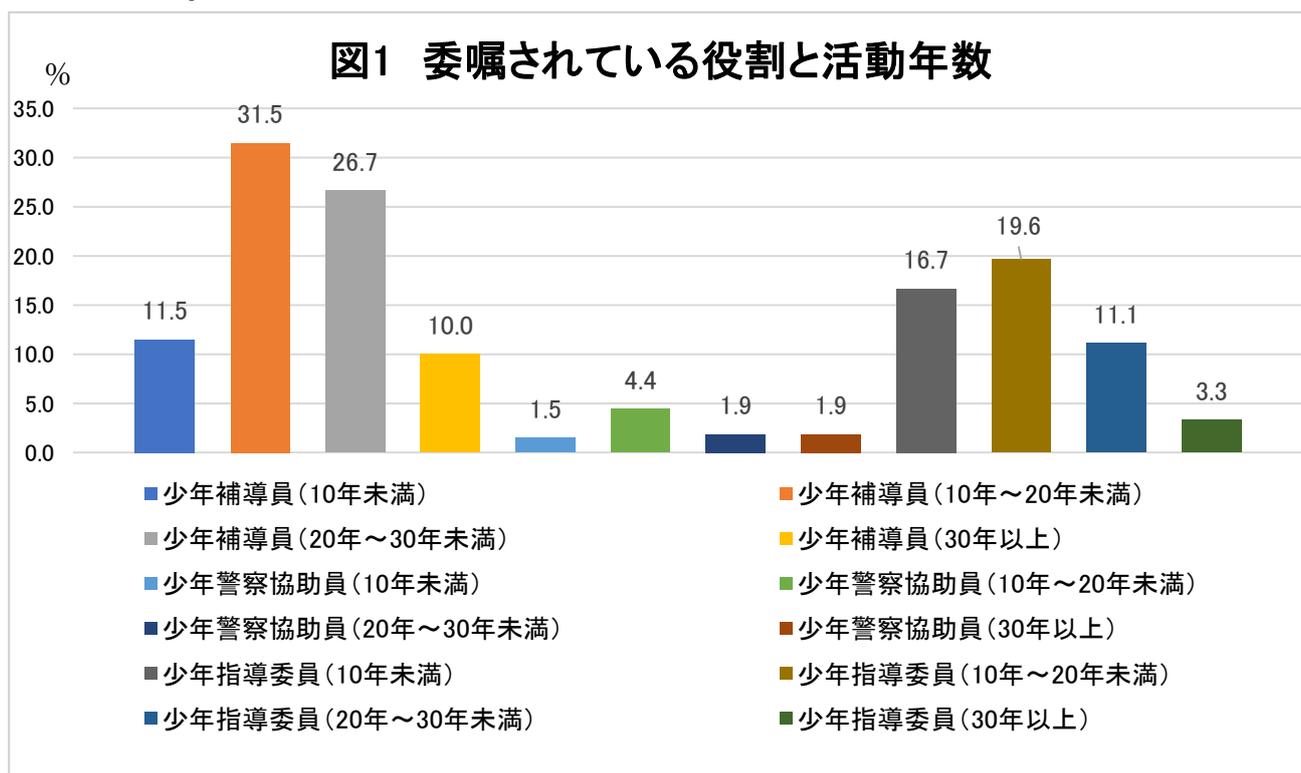
回答者の年代は、60 歳代（50.4%・36.8%）、70 歳代（37.8%・14.4%）、50 歳代（7.8%・32.7%）、40 歳代（2.6%・13.0%）、30 歳代以下（1.1%・2.3%）の順であった。

(3)職業

回答者の職業は、自営業・会社経営者（43.7%・45.7%）、無職（14.8%・13.5%）、その他（13.3%・8.5%）、主婦（10.7%・15.0%）、会社員（8.5%・8.5%）、公務員（3.3%・4.6%）、団体職員（3.3%・3.5%）の順であった。

(4)委嘱されている役割と活動年数

少年補導員では、10 年未満（11.5%・22.0）、10～20 年（31.5%・16.9）、20～30 年（26.7%・9.7%）、30 年以上（10.0%・4.0%）であった。少年警察協助手では、10 年未満（1.5%・8.0%）、10～20 年（4.4%・4.3%）、20～30 年（1.9%・1.7%）、30 年以上（1.9%・0.5%）であった。少年指導委員では 10 年未満（16.7%・11.8%）、10～20 年（19.6%・11.1%）、20～30 年（11.1%・4.6%）30 年以上（3.3%・1.7%）であった。

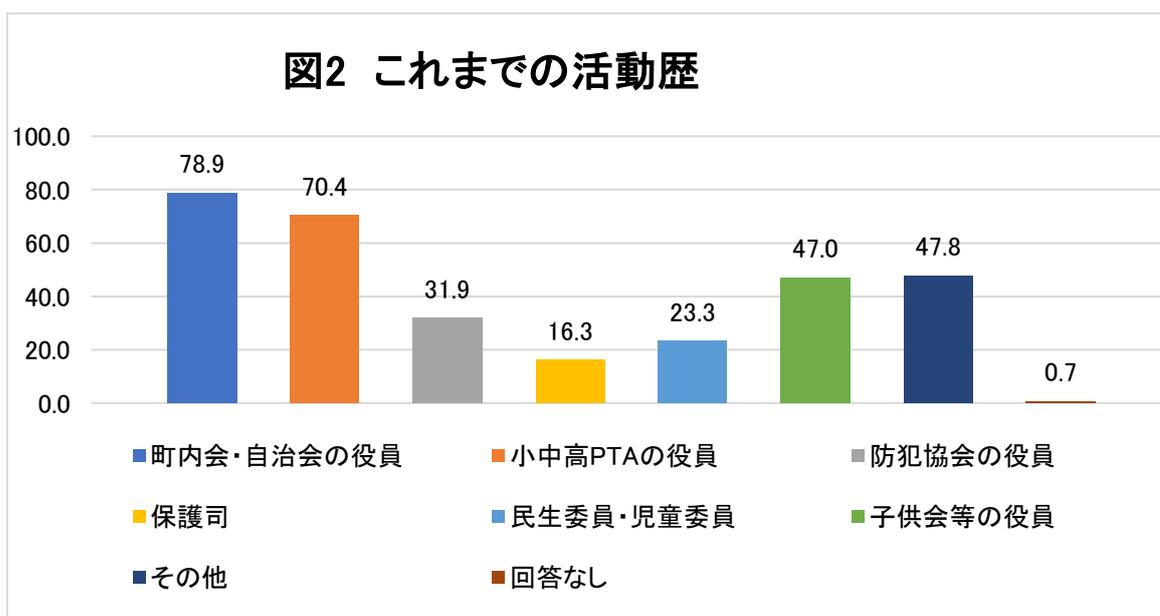


(5)複数ボランティアの委嘱

1人で複数ボランティアの委嘱については、少年補導員のみ(43.7%)、少年補導員と少年指導委員(32.6%)、少年指導委員のみ(14.1%)、少年補導員と少年警察協助手と少年指導委員(3.7%)、少年警察協助手のみ(3.0%)、少年補導員と少年警察協助手(2.2%)、少年警察協助手と少年指導委員(0.7%)であった。

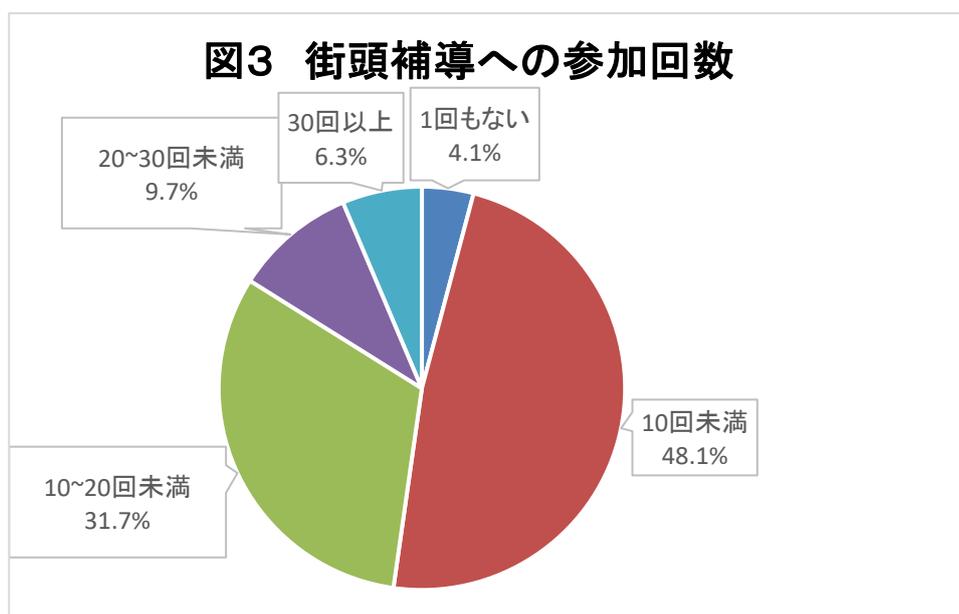
(6)これまでの活動歴(複数回答)

これまでの活動歴は、町内会・自治会の役員(78.9%・69.1%)、小中高PTAの役員(70.4%・70.9%)、その他(47.8%・36.5%)、子供会等の役員(47.8%・50.8%)の順であった。



2 街頭補導の活動状況(いずれも過去1年間)

(1)街頭補導への参加回数

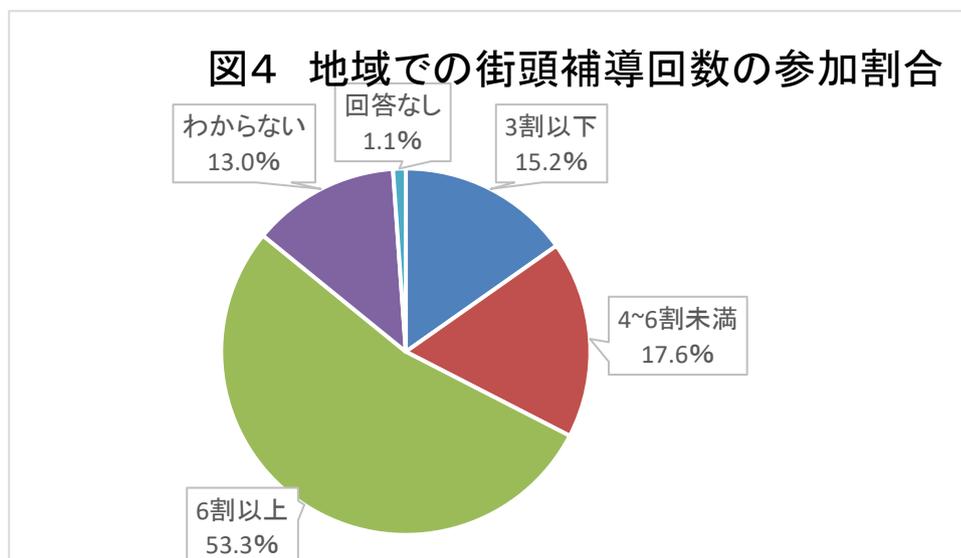


過去1年間の街頭補導への参加回数は、10回未満(48.1%)、10~20回未満

(31.7%)で全体の79.8%を占め、次いで20～30回未満(9.7%)、30回以上(6.3%)の順であった。前回調査：平均参加回数は12.75回。

(2) 地域での街頭補導への参加割合

地域での街頭補導への参加割合は、6割以上(53.3%)、4割～6割(17.6%)、3割以下(15.2%)の順で、半数を超える回答者が6割以上であった。前回調査：8割以上は46.4%。

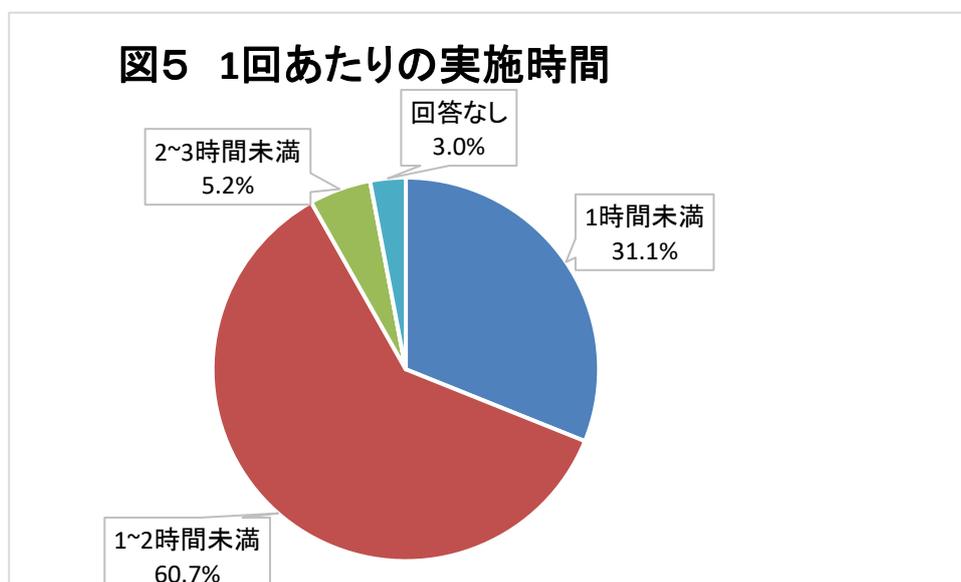


(3) 関係者との合同補導の割合

教員との合同補導は、3割以下が68.1%で全体の約3分の2を占め、4割～6割(8.1%)、6割以上(5.9%)であった。

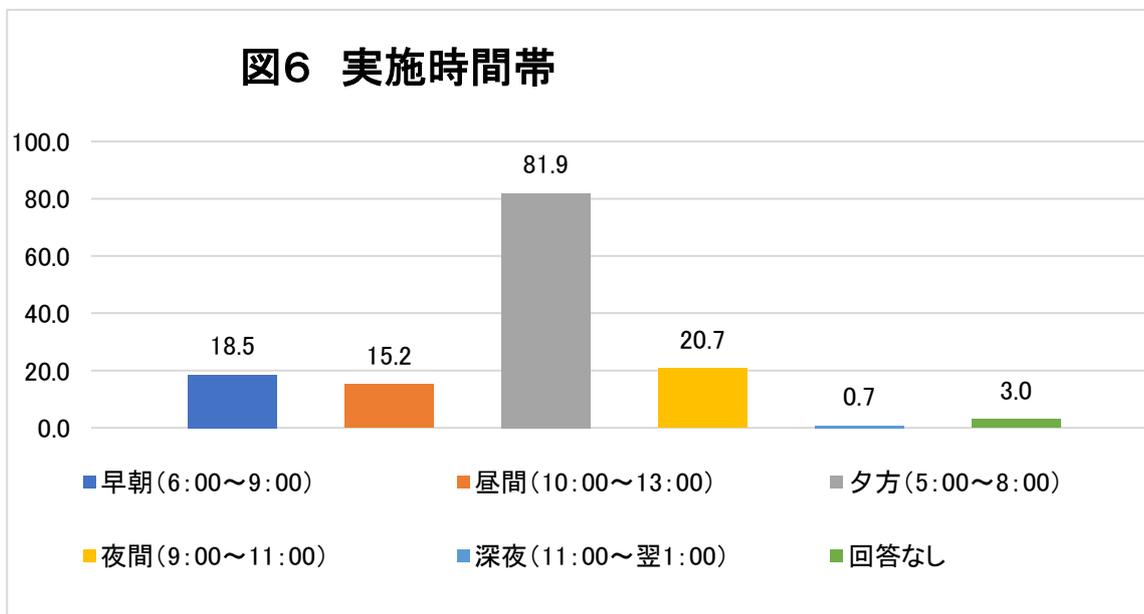
PTAとの合同補導は、3割以下が71.1%で多く、4割～6割(7.4%)、6割以上(3.3%)であった。

(4) 1回あたりの実施時間



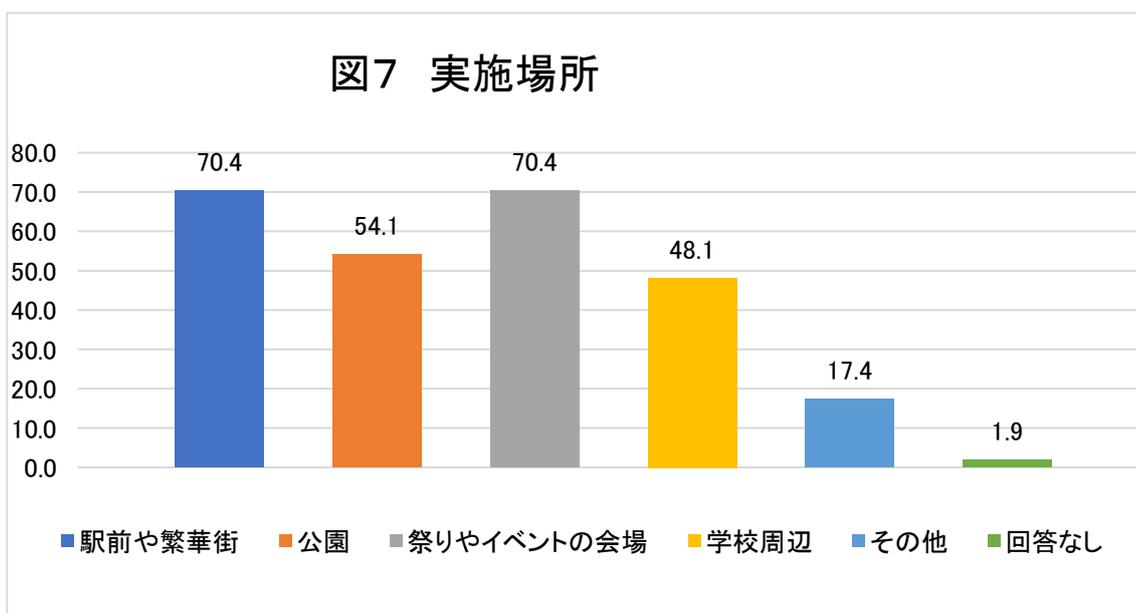
街頭補導活動 1 回あたりの実施時間は、1 時間～2 時間 (60.7%・69.4%) で多く、1 時間未満 (31.1%・5.2%)、2 時間～3 時間未満 (5.2%・22.5%) の順で、前回調査より実施時間が短くなる傾向があった。

(5)実施時間帯（複数回答）



実施時間帯は、夕方 (81.9%・60.2%) で目立って多く、次いで夜間 (20.7%・71.5%)、早朝 (15.2%・9.1%) の順であった。

(6)実施場所（複数回答）

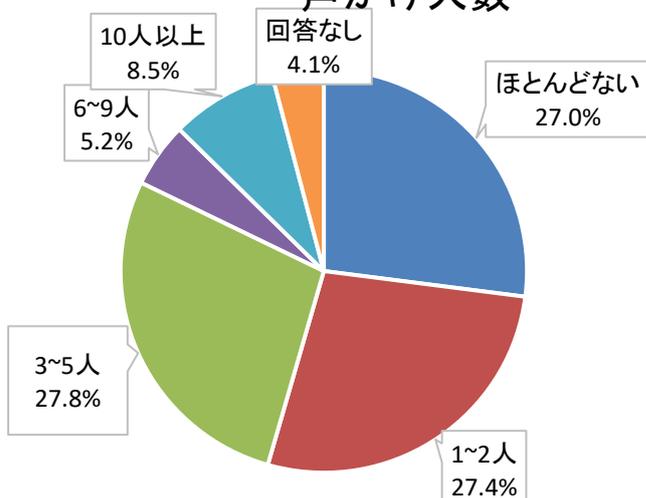


実施場所は、駅前や繁華街 (70.4%・82.7%)、祭りやイベントの会場 (70.4%・80.7%)、公園 (54.1%・65.5%)、学校周辺 (48.1%) 等であった。

(7)1 回の活動での少年への声かけ人数

1回の活動での少年への声かけ人数は、3～5人(27.8%・34.2%)、1～2人(27.4%・35.6%)、ほとんどない(27.0%・12.9%)、10人以上(8.5%・5.3%)、6～9人(5.2%・9.2%)の順であり、前回と比べて、声かけ人数が減少しており、対象となる少年が減少していることがうかがえた。

図8 1回の活動での少年への声かけ人数

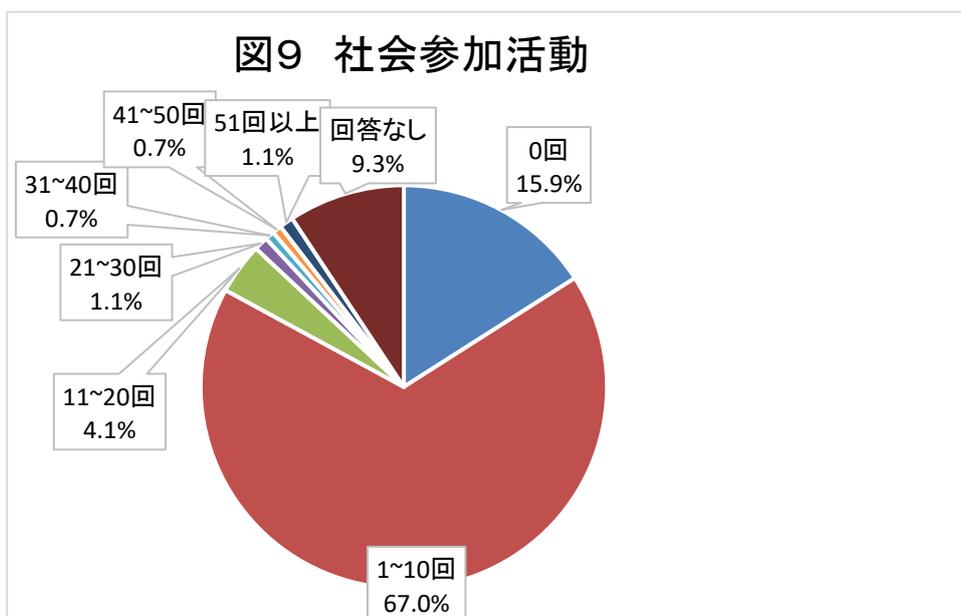


3 街頭補導活動以外の非行防止活動

(1) 社会参加活動の参加回数

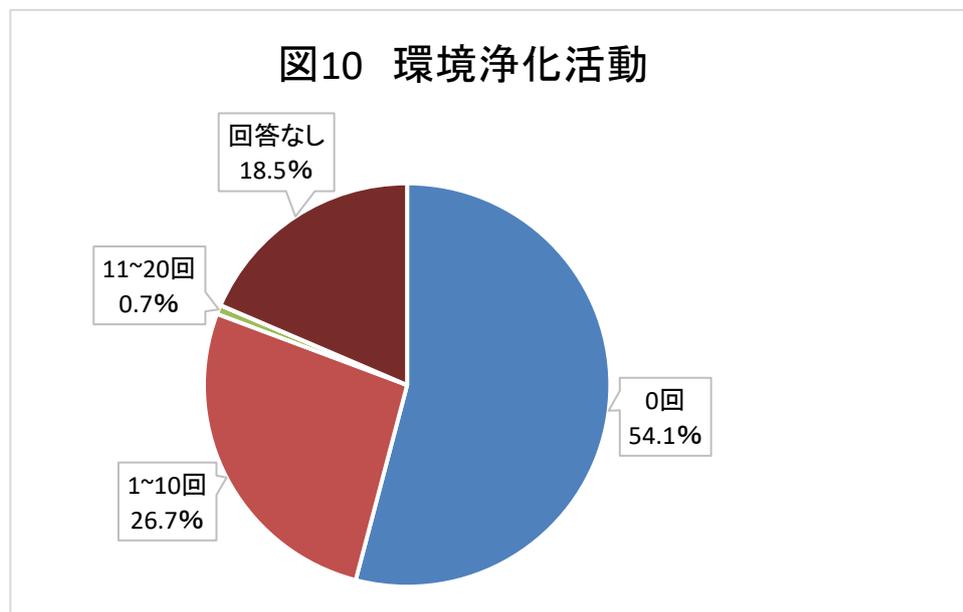
社会参加活動（スポーツ・農業体験・社会奉仕活動など）への参加回数は、1～10回が67.0%・で全体の約3分の2を占め、次いで11～20回(4.1%)、21～30回(1.1%)の順であった。前回調査：平均5.8回。

図9 社会参加活動



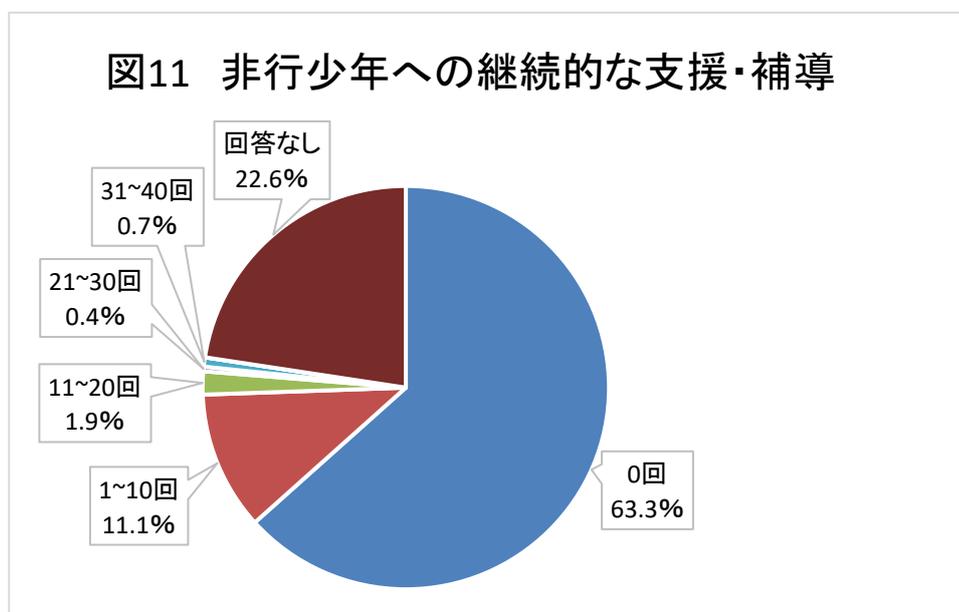
(2)環境浄化活動の参加回数

環境浄化活動(風俗店の看板撤去・ピンクビラはがしなど)への参加回数は、0回(54.1%)が最も多く、次いで1~10回(26.7%)であった。前回調査:平均2.8回。



(3)非行少年への継続的支援・補導の活動回数

非行少年への継続的支援・補導(家庭訪問・生活指導等)の活動回数は、0回(63.3%)が最も多く、次いで1~10回(11.1%)、11~20回(1.9%)の順であった。前回調査:平均2.8回。



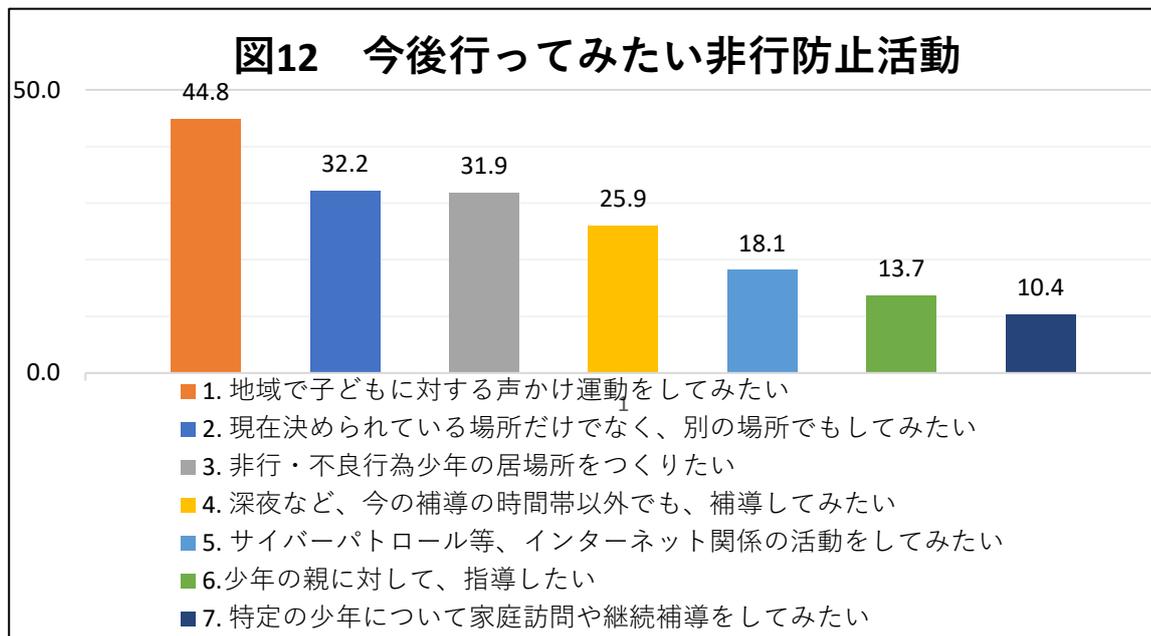
(4)今後行ってみたい非行防止活動(複数回答)

今後行ってみたい非行防止活動については、<全体>、<年代別>、<男女別>の3つの観点からとらえた。

<全体>

回答全体では、地域で子どもに対する声かけ運動(44.8%・45.7%)、現在の場

所だけでなく別の場所で活動(35.2%・26.4%)、非行少年・不良行為少年の居場所作り(31.9%・26.9%)、現在の補導時間帯以外の補導活動(25.9%・29.8%)、サイバーパトロール等(18.1%・前回項目なし)など多様な要望が挙げられた。



＜年代別＞

年代別では、40歳代以下・60歳代・70歳代が地域で子どもに対する声かけ運動がトップで、50歳代・60歳代・70歳代で非行少年・不良行為少年の居場所作り、現在の場所だけでなく別の場所でも活動の2項目が上位であった。40

	40歳代以下	50歳代	60歳代	70歳代
1	地域で子どもに対する声かけ運動(70.0)	現在の場所だけでなく、別の場所でも活動(38.1)	地域で子どもに対する声かけ運動(41.9)	地域で子どもに対する声かけ運動(51.0)
2	サイバーパトロール等、ネット関係の活動(30.0)	サイバーパトロール等、ネット関係の活動(33.3)	非行・不良行為少年の居場所作り(37.5)	現在の場所だけでなく、別の場所でも活動(36.3)
3	特定の少年の家庭訪問や継続補導(20.0)	非行・不良行為少年の居場所作り(33.3)	深夜など、今の補導の時間帯以外の補導(31.6)	非行・不良行為少年の居場所作り(27.5)
4	深夜など、今の補導の時間帯以外の補導(20.0)	地域で子どもに対する声かけ運動(23.8)	現在の場所だけでなく、別の場所でも活動(30.1)	深夜など、今の補導の時間帯以外の補導(20.6)
5	現在の場所だけでなく、別の場所でも活動(20.0)	深夜など、今の補導の時間帯以外の補導(19.0)	サイバーパトロール等、ネット関係の活動(18.4)	特定の少年の家庭訪問や継続補導(13.7)

所作り、現在の場所だけでなく別の場所で活動の2項目が上位であった。40

歳代以下・50歳代では、サイバーパトロール等が上位であった。

<男女別>

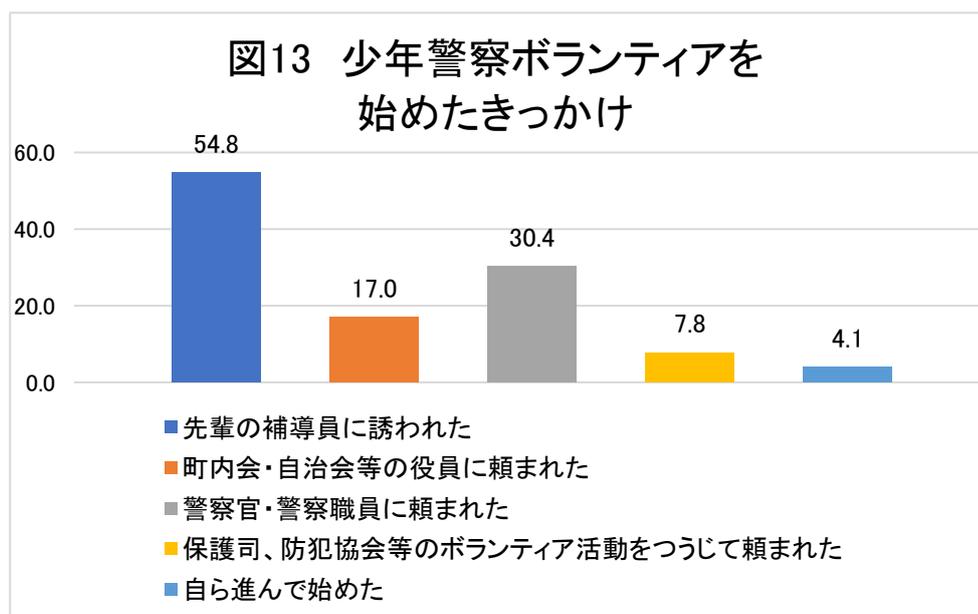
上位項目で男女間の占める比率に差がある活動として、非行少年・不良行為少年の居場所作り（男性29.7%、女性38.1%）、現在の補導時間帯以外の補導活動（男性28.7%、女性17.5%）であり、他の項目での男女差はわずかであった。

	男 性	女 性
1	地域で子どもに対する声かけ運動 (44.6)	地域で子どもに対する声かけ運動 (46.0)
2	現在の場所だけでなく、別の場所でも活動 (32.7)	非行・不良行為少年の居場所作り(38.1)
3	非行・不良行為少年の居場所作り(29.7)	現在の場所だけでなく、別の場所でも活動 (31.7)
4	深夜など、今の補導の時間帯以外の補導 (28.7)	深夜など、今の補導の時間帯以外の補導 (17.5)
5	サイバーパトロール等、ネット関係の活動 (18.8)	サイバーパトロール等、ネット関係の活動 (15.9)

4 少年警察ボランティア活動に対する意識や意見等

(1)少年警察ボランティアを始めたきっかけ（複数回答）

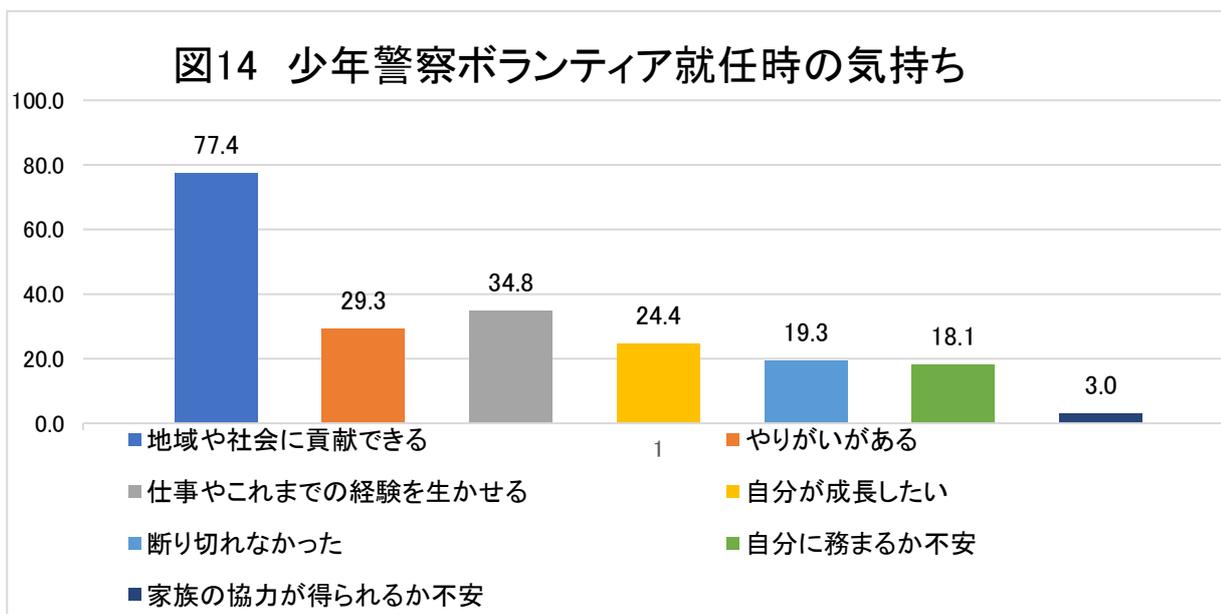
少年警察ボランティアを始めたきっかけは、先輩の補導員に誘われた（54.8%）警察官・警察職員に頼まれた（30.7%）、町内会・自治会等の役員に頼まれた（17.0%）の順であった。



(2)少年警察ボランティア就任時の気持ち（複数回答）

少年警察ボランティア就任時の気持ちは、地域や社会に貢献できる（77.4%）、

仕事やこれまでの経験を生かせる(34.8%)、やりがいがある(29.3%)、自分が成長したい(24.4%)の順であった。

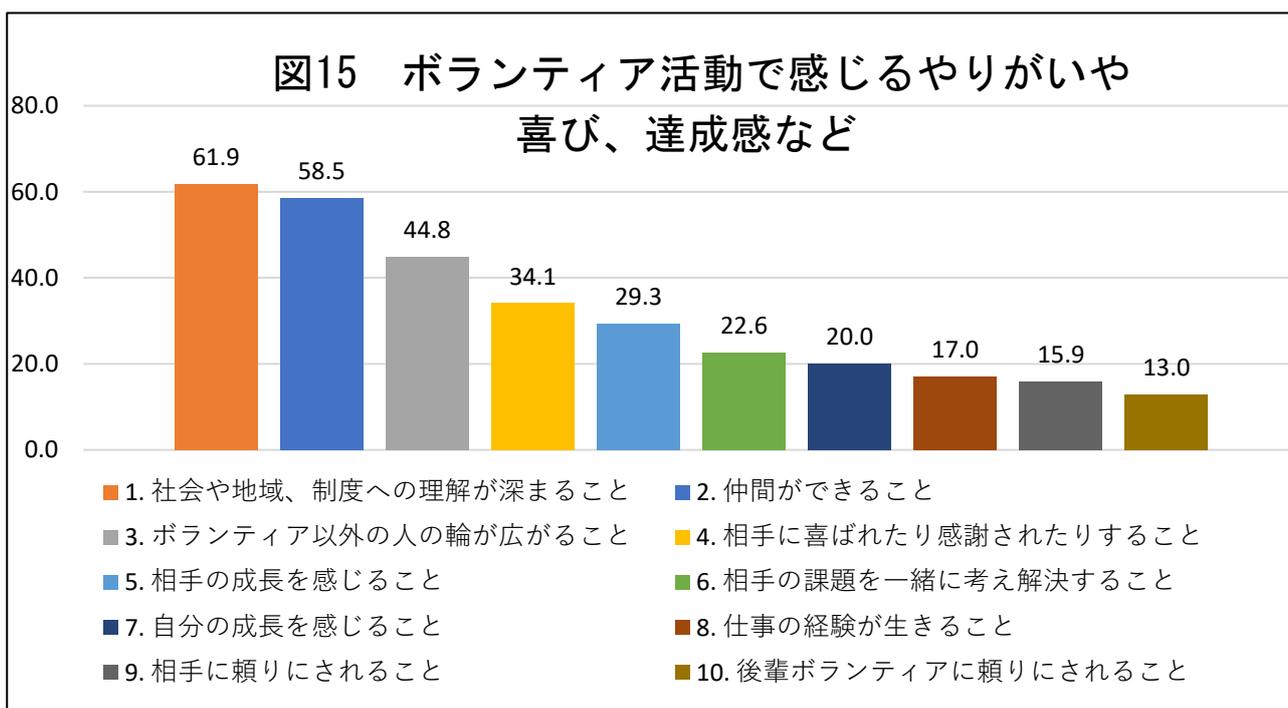


(3) ボランティア活動で感じるやりがいや喜び、達成感（複数回答）

ボランティア活動で感じるやりがいや喜び、達成感については、〈全体〉、〈年代別〉、〈男女別〉の3つの観点からとらえた。

〈全体〉

回答全体を通じたボランティア活動で感じるやりがいや喜び、達成感は、社会や地域、制度への理解が深まること(61.9%)、仲間ができること(58.5%)、ボランティア以外の人との輪が広がること(44.8%)、相手に喜ばれたり感謝されたりすること(34.1%)などの順に多かった。



<年代別>

すべての年代を通じて、社会や地域、制度への理解が深まること、仲間ができることの2項目が上位を占めていた。

	40歳代以下	50歳代	60歳代	70歳代
1	社会や地域、制度への理解が深まる (50.0)	社会や地域、制度への理解が深まる (76.2)	仲間ができる(58.8)	社会や地域、制度への理解が深まる(66.7)
2	仲間ができる (50.0)	仲間ができる (38.1)	社会や地域、制度への理解が深まる (57.4)	仲間ができる(62.7)
3	自分の成長を感じる(40.0)	相手の成長を感じる(33.3)	ボランティア以外の人 の輪が広がる(41.9)	ボランティア以外の人 の輪が広がる(54.9)
4	相手の課題を一緒に 考え解決する (40.0)	相手に頼りにされ る(23.8)	相手に喜ばれたり感 謝されたりする(31.6)	相手に喜ばれたり感謝 されたりする(44.1)
5	ボランティア以外の 人の輪が広がる (40.0)	ボランティア以外の 人の輪が広がる (19.0)	相手の成長を感じる (26.5)	相手の成長を感じる (34.3)

<男女別>

上位項目で男女間の占める比率に差がある項目は、仲間ができる(男性55.4%、女性69.8%)の1項目で、他の項目は男女間に差が見られなかった。

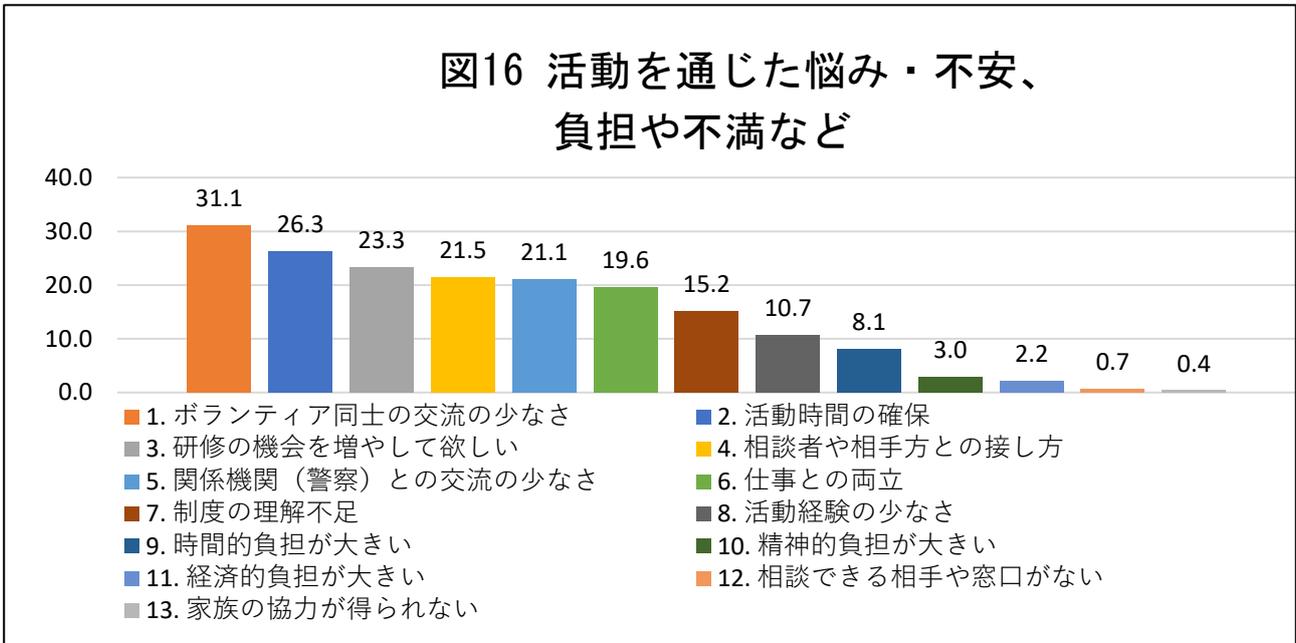
	男 性	女 性
1	社会や地域、制度への理解が深まる (61.9)	仲間ができる(69.8)
2	仲間ができる(55.4)	社会や地域、制度への理解が深まる (61.9)
3	ボランティア以外の人 の輪が広がる (45.0)	ボランティア以外の人 の輪が広がる (44.4)
4	相手に喜ばれたり感謝されたりする (34.7)	相手の成長を感じる(34.9)
5	相手の成長を感じる(26.7)	相手に喜ばれたり感謝されたりする (33.3)

④活動を通じた悩みや不安、負担や不満(複数回答)

活動を通じた悩みや不安、負担や不満については、＜全体＞、＜年代別＞、＜男女別＞の3つの観点からとらえた。

＜全体＞

回答全体では、ボランティア同士の交流の少なさ(31.1%)、活動時間の確保(26.3%)、研修の機会を増やして欲しい(23.3%)、相談者や相手方との接し方(21.5%)の順で、占める比率は少ないものの多様な悩み・不安等が指摘された。



＜年代別＞

	40 歳代以下	50 歳代	60 歳代	70 歳代
1	相談者や相手方との接し方(30.0)	活動時間の確保(38.1)	ボランティア同士の交流の少なさ(31.6)	ボランティア同士の交流の少なさ(35.3)
2	仕事との両立(30.0)	仕事との両立(28.6)	仕事との両立(26.5)	活動時間の確保(25.5)
3	活動時間の確保(20.0)	関係機関(警察)との交流の少なさ(28.6)	活動時間の確保(25.7)	相談者や相手方との接し方(24.5)
4	関係機関(警察)との交流の少なさ(20.0)	ボランティア同士の交流の少なさ(23.8)	研修の機会を増やして欲しい(24.3)	研修の機会を増やして欲しい(24.5)
5	制度の理解不足(10.0)	研修の機会を増やして欲しい(19.0)	相談者や相手方との接し方(20.6)	関係機関(警察)との交流の少なさ(22.5)

年代によって、活動を通じた悩みや不安、負担や不満にはそれぞれ特徴がみ

られた。ボランティア同士の交流の少なさが60歳代(31.6%)・70歳代(35.3%)で共に1位であるが、50歳代は23.8%、40歳代以下は0%であり60歳代・70歳代とは差が見られた。また、各年代を通じて多少の差はみられるものの、活動時間の確保、仕事との両立、関係機関（警察）との交流の少なさ、研修の機会を増やしてほしいなどが挙げられた。

<男女別>

男女ともボランティア同士の交流の少なさが1位に挙げられ、2位以下は男性が活動時間の確保(29.2%)、相談者や相手方との接し方(24.3%)の順であったが、女性は研修の機会を増やして欲しい(25.4%)、制度の理解不足(19.0%)の順であり、男女間に違いが見られた。

	男 性	女 性
1	ボランティア同士の交流の少なさ (33.7)	ボランティア同士の交流の少なさ (25.4)
2	活動時間の確保(29.2)	研修の機会を増やして欲しい(25.4)
3	相談者や相手方との接し方(24.3)	制度の理解不足(19.0)
4	関係機関（警察）との交流の少なさ (23.3)	活動経験の少なさ(17.5)
5	研修の機会を増やして欲しい(23.3)	関係機関（警察）との交流の少なさ (15.9)

<調査用紙>

これからの少年警察ボランティア活動に関する調査協力をお願い

この調査は、少年警察ボランティア活動に関わる方々に、活動についてお尋ねするものです。みなさま個人の活動経歴や、活動に対するご意見等をお伺いし、これからの少年警察ボランティア活動について検討するための基礎資料とさせていただきます。

結果は、すべてコンピューターによって統計的に処理されますので、どのように答えても、あなたの迷惑になることは、決してありません。もちろん名前を書く必要もありません。どうか自分の経験やお考えを、ありのままに答えてください。ご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人全国少年警察ボランティア協会

事務局長 柴田 佳幸

(連絡先 遠藤 03-3239-4970)

- 答え方：あてはまる番号等に○をつけてください。カッコの中には該当する文字又は数字を記入してください。

- A あなたの住んでいるところは () 都・道・府・県
- B 性別 1 男 2 女
- C 年齢 1 30歳代以下 2 40歳代 3 50歳代 4 60歳代 5 70歳代以上
- D 職業 1 自営業・会社経営者 2 会社員 3 団体職員 4 公務員
5 主婦 6 無職 7 その他 ()
- E あなたが委嘱されている役割であてはまるものすべてに○をつけてください。また、それぞれの活動の年数を、ア～エから選んでください。
- 1 少年補導員 (少年補導協助力員・少年補導協力員・少年相談員等を含む)
ア 10年未満 イ 10年～20年未満 ウ 20年～30年未満 エ 30年以上
- 2 少年警察協助力員
ア 10年未満 イ 10年～20年未満 ウ 20年～30年未満 エ 30年以上
- 3 少年指導委員
ア 10年未満 イ 10年～20年未満 ウ 20年～30年未満 エ 30年以上
- F いままで行った活動(現在も含めて)であてはまるものすべてに○をつけてください。
- 1 町内会・自治会の役員 2 小中高PTAの役員 3 防犯協会の役員
4 保護司 5 民生委員・児童委員 6 子供会等の役員
7 その他(下欄にいくつでも、具体的にお書きください。)
-
-
-

● これからは、少年の非行防止等に関わる、あなたの活動状況についてお伺いします。

G あなたは、過去1年間に約何回、街頭補導に参加されましたか。

- 1 1回もない 2 10回未満 3 10回～20回未満 4 20回～30回未満
5 30回以上

H その参加回数は、あなたの地域で行われた街頭補導回数の何割くらいになりますか。

- 1 3割以下 2 4割～6割未満 3 6割以上 4 わからない

I 街頭補導のうち、全体の何割くらいを学校の先生と一緒にきましたか。

- 1 3割以下 2 4割～6割未満 3 6割以上 4 わからない

J 街頭補導のうち、全体の何割くらいをPTAと一緒にきましたか。

- 1 3割以下 2 4割～6割未満 3 6割以上 4 わからない

K あなたが参加した街頭補導の、1回あたりの実施時間はどの程度でしたか。

- 1 1時間未満 2 1時間～2時間未満 3 2時間～3時間未満 4 3時間以上

L あなたが参加している街頭補導活動の実施時間帯についてお伺いします。

あてはまるものすべてに○をつけてください。(時間は目安の時間)

- 1 早朝(6:00～9:00) 2 昼間(10:00～13:00) 3 夕方(5:00～8:00)
4 夜間(9:00～11:00) 5 深夜(11:00～翌1:00)

M あなたが参加している街頭補導活動の場所や時期についてお伺いします。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

M-1 場所

- 1 駅前や繁華街 2 公園 3 祭りやイベントの会場 4 学校周辺
5 その他()

M-2 時期

- 1 卒業式後 2 夏休み明け 3 週末 4 年末年始 5 その他
()

N あなたは、1回の街頭補導につき、おおむね何人ほどの少年に声かけしたり、注意しましたか。

- 1 ほとんどない 2 1～2人 3 3～5人 4 6～9人 5 10人以上

● 街頭補導以外の非行防止・健全育成活動に対する、あなたの参加状況をお伺いします。

O あなたは、過去1年間に、以下のそれぞれの活動に何回ほど参加しましたか。

1 スポーツ・農業体験・社会奉仕活動など、青少年のための社会参加活動
約()回

2 環境浄化活動(風俗店の看板撤去・ピンクビラはがしなど)
約()回

3 非行集団加入者や非行の進んだ少年等に対する、個別的で継続的な支援・補導(家庭訪問や生活指導など)
約()回

P 以下の活動の中で、今後してみたい活動がありましたら、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 特定の少年について家庭訪問や継続補導をしてみたい
- 2 深夜など、今の補導の時間帯以外でも、補導してみたい
- 3 現在決められている場所だけでなく、別の場所でもしてみたい
- 4 少年の親に対して、指導したい
- 5 非行・不良行為少年の居場所をつくりたい
- 6 地域で子どもに対する声かけ運動をしてみたい
- 7 サイバーパトロール等、インターネット関係の活動をしてみたい
- 8 その他してみたい活動等がありましたら、下欄に自由にお書きください

● 少年警察ボランティアについてお伺いします。

Q 少年警察ボランティアを始めたきっかけは何ですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 先輩の補導員に誘われた
- 2 町内会・自治会等の役員に頼まれた
- 3 警察官・警察職員に頼まれた
- 4 保護司、防犯協会等のボランティア活動をつうじて頼まれた
- 5 自ら進んで始めた
- 6 その他（下欄に自由にお書きください）

R 少年警察ボランティア就任時の気持ちに近いものを選んでください。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 地域や社会に貢献できる
- 2 やりがいがある
- 3 仕事やこれまでの経験を生かせる
- 4 自分が成長したい
- 5 断り切れなかった
- 6 自分に務まるか不安
- 7 家族の協力が得られるか不安
- 8 その他（下欄に自由にお書きください）

S 少年警察ボランティア活動で次のようなやりがいや喜び、達成感を感じることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 社会や地域、制度への理解が深まること
- 2 相手に喜ばれたり感謝されたりすること
- 3 相手の課題を一緒に考え解決すること
- 4 相手の成長を感じることに
- 5 相手に頼りにされること
- 6 仕事の経験が生きること
- 7 自分の成長を感じることに
- 8 仲間ができること
- 9 後輩ボランティアに頼りにされること
- 10 ボランティア以外の人の輪が広がること
- 11 その他（下欄に自由にお書きください）

T 少年警察ボランティア活動で次のような悩みや不安、負担や不満を感じることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 相談者や相手方との接し方
- 2 仕事との両立
- 3 活動時間の確保
- 4 活動経験の少なさ
- 5 制度の理解不足
- 6 ボランティア同士の交流の少なさ
- 7 関係機関（警察）との交流の少なさ
- 8 研修の機会を増やして欲しい
- 9 精神的負担が大きい
- 10 時間的負担が大きい
- 11 経済的負担が大きい
- 12 家族の協力が得られない
- 13 相談できる相手や窓口がない
- 14 その他（下欄に自由にお書きください）

U これからの少年警察ボランティア活動に必要なことは何だと思いませんか
下欄に自由にお書きください。

H その他、ご意見等ありましたら下欄にお書きください

第Ⅱ部 資料編

1 アンケート調査結果データ（単純集計表）

(1) 回答者の基本属性

B 性別

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	男	202	74.8
2	女	63	23.3
	回答なし	5	1.9
	全体	270	100.0

C 年代

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	30歳代以下	3	1.1
2	40歳代	7	2.6
3	50歳代	21	7.8
4	60歳代	136	50.4
5	70歳代以上	102	37.8
	回答なし	1	0.4
	全体	270	100.0

D 職業

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	自営業・会社経営者	118	43.7
2	会社員	23	8.5
3	団体職員	9	3.3
4	公務員	9	3.3
5	主婦	29	10.7
6	無職	40	14.8
7	その他	36	13.3
	回答なし	6	2.2
	全体	270	100.0

E あなたが委嘱されている役割であてはまるものすべてに○をつけてください。

E-1 委嘱されている役割と年数

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	少年補導員（10年未満）	31	11.5
2	少年補導員（10年～20年未満）	85	31.5
3	少年補導員（20年～30年未満）	72	26.7
4	少年補導員（30年以上）	27	10.0
5	少年警察協助手員（10年未満）	4	1.5
6	少年警察協助手員（10年～20年未満）	12	4.4
7	少年警察協助手員（20年～30年未満）	5	1.9
8	少年警察協助手員（30年以上）	5	1.9
9	少年指導委員（10年未満）	45	16.7
10	少年指導委員（10年～20年未満）	53	19.6
11	少年指導委員（20年～30年未満）	30	11.1
12	少年指導委員（30年以上）	9	3.3
	全体	378	

E-2 複数の役割を委嘱されているか

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	少年補導員のみ	118	43.7
2	少年警察協助手員のみ	8	3.0
3	少年指導委員のみ	38	14.1
4	少年補導員と少年警察協助手員	6	2.2
5	少年補導員と少年指導委員	88	32.6
6	少年警察協助手員と少年指導委員	2	0.7
7	すべて	10	3.7
	全体	270	100.0

F いままで行った活動（現在も含めて）で、あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	町内会・自治会の役員	213	78.9
2	小中高PTAの役員	190	70.4
3	防犯協会の役員	86	31.9
4	保護司	44	16.3
5	民生委員・児童委員	63	23.3
6	子供会等の役員	127	47.0
7	その他	129	47.8
	回答なし	2	0.7
	全体	854	

(2) 街頭補導の活動状況

G あなたは、過去1年間に約何回、街頭補導に参加されましたか。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	1回もない	11	4.1
2	10回未満	129	48.1
3	10回～20回未満	85	31.7
4	20回～30回未満	26	9.7
5	30回以上	17	6.3
	回答なし	0	0.0
	全体	268	100.0

H その参加回数は、あなたの地域で行われた街頭補導回数の何割くらいになりますか。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	3割以下	41	15.2
2	4割～6割未満	47	17.4
3	6割以上	144	53.3
4	わからない	35	13.0
	回答なし	3	1.1
	全体	270	100.0

I 街頭補導のうち、全体の何割くらいを学校の先生と一緒に行きましたか。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	3割以下	184	68.1
2	4割～6割未満	22	8.1
3	6割以上	16	5.9
4	わからない	32	11.9
	回答なし	16	5.9
	全体	270	100.0

J 街頭補導のうち、全体の何割くらいをPTAと一緒に行きましたか。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	3割以下	192	71.1
2	4割～6割未満	20	7.4
3	6割以上	9	3.3
4	わからない	32	11.9
	回答なし	17	6.3
	全体	270	100.0

K あなたが参加した街頭補導の、1回あたりの実施時間はどの程度でしたか。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	1時間未満	84	31.1
2	1時間～2時間未満	164	60.7
3	2時間～3時間未満	14	5.2
4	3時間以上	0	0.0
	回答なし	8	3.0
	全体	270	100.0

L あなたが参加している街頭補導活動の実施時間帯についてお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	早朝 (6:00~9:00)	50	18.5
2	昼間 (10:00~13:00)	41	15.2
3	夕方 (5:00~8:00)	221	81.9
4	夜間 (9:00~11:00)	56	20.7
5	深夜 (11:00~翌1:00)	2	0.7
	回答なし	8	3.0
	全体	378	

M あなたが参加している街頭補導活動の場所や時期についてお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください。

M-1 場所

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	駅前や繁華街	190	70.4
2	公園	146	54.1
3	祭りやイベントの会場	190	70.4
4	学校周辺	130	48.1
5	その他	47	17.4
	回答なし	5	1.9
	全体	708	

M-2 時期

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	卒業式後	54	20.0
2	夏休み明け	74	27.4
3	週末	84	31.1
4	年末年始	64	23.7
5	その他	136	50.4
	回答なし	19	7.0
	全体	431	

N あなたは、1回の街頭補導につき、おおむね何人ほどの少年に声かけしたり、注意しましたか。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	ほとんどない	73	27.0
2	1~2人	74	27.4
3	3~5人	75	27.8
4	6~9人	14	5.2
5	10人以上	23	8.5
	回答なし	11	4.1
	全体	270	100.0

(3) 街頭補導以外の非行防止活動

0 あなたは、過去1年間に、以下のそれぞれの活動に何回ほど参加しましたか。

0-1 スポーツ・農業体験・社会奉仕活動など、青少年のための社会参加活動

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	0回	43	15.9
2	1~10回	181	67.0
3	11~20回	11	4.1
4	21~30回	3	1.1
5	31~40回	2	0.7
6	41~50回	2	0.7
7	51回以上	3	1.1
	回答なし	25	9.3
	全体	270	100.0

0-2 環境浄化活動（風俗店の看板撤去・ピンクビラはがしなど）

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	0回	146	54.1
2	1～10回	72	26.7
3	11～20回	2	0.7
4	21～30回	0	0.0
5	31～40回	0	0.0
6	41～50回	0	0.0
7	51回以上	0	0.0
	回答なし	50	18.5
	全体	270	100.0

0-3 非行集団加入者や非行の進んだ少年等に対する、個別的で継続的な支援・補導（家庭訪問や生活指導など）

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	0回	171	63.3
2	1～10回	30	11.1
3	11～20回	5	1.9
4	21～30回	1	0.4
5	31～40回	2	0.7
6	41～50回	0	0.0
7	51回以上	0	0.0
	回答なし	61	22.6
	全体	270	100.0

P 以下の活動の中で、今後してみたい活動がありましたら、あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	特定の少年について家庭訪問や継続補導をしてみたい	28	10.4
2	深夜など、今の補導の時間帯以外でも、補導してみたい	70	25.9
3	現在決められている場所だけでなく、別の場所でもしてみたい	87	32.2
4	少年の親に対して、補導したい	37	13.7
5	非行・不良行為少年の居場所をつくりたい	86	31.9
6	地域で子どもに対する声かけ運動をしてみたい	121	44.8
7	サイバーパトロール等、インターネット関係の活動をしてみたい	49	18.1
8	その他	27	10.0
	回答なし	15	5.6
	全体	520	

(4) 少年警察ボランティア活動に対する意識や意見等

Q 少年警察ボランティアを始めたきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	先輩の補導員に誘われた	148	54.8
2	町内会・自治会等の役員に頼まれた	46	17.0
3	警察官・警察職員に頼まれた	82	30.4
4	保護司、防犯協会等のボランティア活動をつうじて頼まれた	21	7.8
5	自ら進んで始めた	11	4.1
6	その他	28	10.4
	回答なし	4	1.5
	全体	340	

R 少年警察ボランティア就任時の気持ちに近いものを選んでください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	地域や社会に貢献できる	209	77.4
2	やりがいがある	79	29.3
3	仕事やこれまでの経験を生かせる	94	34.8
4	自分が成長したい	66	24.4
5	断り切れなかった	52	19.3
6	自分に務まるか不安	49	18.1
7	家族の協力が得られるか不安	8	3.0
8	その他	18	6.7
	回答なし	3	1.1
	全体	578	

S 少年警察ボランティア活動で次のようなやりがいや喜び、達成感を感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	社会や地域、制度への理解が深まること	167	61.9
2	相手に喜ばれたり感謝されたりすること	92	34.1
3	相手の課題を一緒に考え解決すること	61	22.6
4	相手の成長を感じることに	79	29.3
5	相手に頼りにされること	43	15.9
6	仕事の経験が生きることに	46	17.0
7	自分の成長を感じることに	54	20.0
8	仲間ができること	158	58.5
9	後輩ボランティアに頼りにされること	35	13.0
10	ボランティア以外の人の輪が広がること	121	44.8
11	その他	17	6.3
	回答なし	5	1.9
	全体	878	

T 少年警察ボランティア活動で次のような悩みや不安、負担や不満を感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

No.	カテゴリー名	回答数	率 (%)
1	相談者や相手方との接し方	58	21.5
2	仕事との両立	53	19.6
3	活動時間の確保	71	26.3
4	活動経験の少なさ	29	10.7
5	制度の理解不足	41	15.2
6	ボランティア同士の交流の少なさ	84	31.1
7	関係機関（警察）との交流の少なさ	57	21.1
8	研修の機会を増やして欲しい	63	23.3
9	精神的負担が大きい	8	3.0
10	時間的負担が大きい	22	8.1
11	経済的負担が大きい	6	2.2
12	家族の協力が得られない	1	0.4
13	相談できる相手や窓口がない	2	0.7
14	その他	48	17.8
	回答なし	25	9.3
	全体	568	

2 アンケート調査結果データ（クロス集計表）

(1)回答者の基本属性×性別・年代・委嘱されている役割

B 性別

		合計	男	女	回答なし
全体		270 100.0	202 74.8	63 23.3	5 1.9
性別	男	202 100.0	202 100.0	0 0.0	0 0.0
	女	63 100.0	0 0.0	63 100.0	0 0.0
	回答なし	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0
	40歳代	7 100.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	17 81.0	3 14.3	1 4.8
	60歳代	136 100.0	97 71.3	37 27.2	2 1.5
	70歳代以上	102 100.0	79 77.5	21 20.6	2 2.0
	回答なし	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	91 77.1	25 21.2	2 1.7
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	7 87.5	1 12.5	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	28 73.7	9 23.7	1 2.6
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	62 70.5	24 27.3	2 2.3
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	7 70.0	3 30.0	0 0.0

C 年代

		合計	年代					回答なし
			30歳代以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	
全体		270 100.0	3 1.1	7 2.6	21 7.8	136 50.4	102 37.8	1 0.4
性別	男	202 100.0	2 1.0	7 3.5	17 8.4	97 48.0	79 39.1	0 0.0
	女	63 100.0	1 1.6	0 0.0	3 4.8	37 58.7	21 33.3	1 1.6
	回答なし	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	0 0.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	0 0.0	0 0.0	21 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60歳代	136 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	136 100.0	0 0.0	0 0.0
	70歳代以上	102 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	102 100.0	0 0.0
	回答なし	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	2 1.7	1 0.8	11 9.3	56 47.5	47 39.8	1 0.8
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 75.0	2 25.0	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	1 2.6	2 5.3	4 10.5	18 47.4	13 34.2	0 0.0
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	0 0.0	4 4.5	6 6.8	50 56.8	28 31.8	0 0.0
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	7 70.0	0 0.0

D 職業

		合計								回答なし
			自営業・会社経営者	会社員	団体職員	公務員	主婦	無職	その他	
全体		270 100.0	118 43.7	23 8.5	9 3.3	9 3.3	29 10.7	40 14.8	36 13.3	6 2.2
性別	男	202 100.0	106 52.5	20 9.9	9 4.5	8 4.0	0 0.0	32 15.8	26 12.9	1 0.5
	女	63 100.0	10 15.9	3 4.8	0 0.0	1 1.6	29 46.0	8 12.7	7 11.1	5 7.9
	回答なし	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	3 42.9	3 42.9	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	12 57.1	3 14.3	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0	5 23.8	0 0.0
	60歳代	136 100.0	60 44.1	15 11.0	7 5.1	7 5.1	14 10.3	9 6.6	21 15.4	3 2.2
	70歳代以上	102 100.0	43 42.2	2 2.0	2 2.0	1 1.0	14 13.7	31 30.4	7 6.9	2 2.0
	回答なし	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	43 36.4	11 9.3	7 5.9	6 5.1	10 8.5	20 16.9	18 15.3
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	2 25.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5
	少年指導委 員のみ	38 100.0	18 47.4	3 7.9	1 2.6	1 2.6	6 15.8	3 7.9	6 15.8	0 0.0
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	44 50.0	6 6.8	1 1.1	2 2.3	10 11.4	14 15.9	9 10.2	2 2.3
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

E あなたが委嘱されている役割であてはまるものすべてに○をつけてください。

E-1 委嘱されている役割と年数

	合計	少年補導員	少年補導員	少年補導員	少年補導員	少年警察協	少年警察協	少年警察協	少年警察協	少年指導委	少年指導委	少年指導委	少年指導委	
		(10年未 満)	(10年~20 年未満)	(20年~30 年未満)	(30年以 上)	助員(10年 未満)	助員(20年 ~30年未 満)	助員(30年 以上)	員(10年未 満)	員(10年~ 20年未満)	員(20年~ 30年未満)	員(30年以 上)		
全体	378	31 11.5	85 31.5	72 26.7	27 10.0	4 1.5	12 4.4	5 1.9	5 1.9	45 16.7	53 19.6	30 11.1	9 3.3	
性別	男	281 11.4	23 31.7	64 27.2	55 10.4	21 10.4	3 1.5	11 5.4	4 2.0	3 1.5	29 14.4	40 19.8	21 10.4	7 3.5
	女	90 11.1	7 31.7	20 27.0	17 6.3	4 6.3	1 1.6	1 1.6	1 1.6	2 3.2	15 23.8	11 17.5	9 14.3	2 3.2
	回答なし	7 20.0	1 20.0	1 0.0	0 40.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 66.7	2 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	11 42.9	3 28.6	2 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	2 28.6	0 0.0	0 0.0
	50歳代	26 28.6	6 28.6	6 19.0	4 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 19.0	5 23.8	1 4.8	0 0.0
	60歳代	193 11.0	15 39.7	54 25.7	35 5.1	7 5.1	1 0.7	8 5.9	2 1.5	1 0.7	26 19.1	26 19.1	14 10.3	4 2.9
	70歳代以上	144 3.9	4 22.5	23 32.4	33 19.6	20 19.6	3 2.9	4 3.9	3 2.9	4 3.9	10 9.8	20 19.6	15 14.7	5 4.9
	回答なし	1 100.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	112 16.9	20 33.1	39 32.2	38 12.7	15 12.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
少年警察協 助員のみ	8 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
少年指導委 員のみ	38 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 26.3	10 26.3	12 31.6	6 15.8	
少年補導員 と少年警察 協助員	12 0.0	0 33.3	2 50.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	175 12.5	11 45.5	40 31.8	28 10.2	9 10.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	32 36.4	38 43.2	15 17.0	2 2.3	
少年警察協 助員と少年 指導委員	4 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	
すべて	29 0.0	0 40.0	4 30.0	3 20.0	2 20.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	5 50.0	1 10.0	1 10.0	

E-2 複数の役割を委嘱されているか

		合計	少年補導員のみ	少年警察協 助員のみ	少年指導 委員のみ	少年補導員 と少年警察 協助員	少年補導員 と少年指導 委員	少年警察協 助員と少年 指導委員	すべて
全体		270 100.0	118 43.7	8 3.0	38 14.1	6 2.2	88 32.6	2 0.7	10 3.7
性別	男	202 100.0	91 45.0	7 3.5	28 13.9	6 3.0	62 30.7	1 0.5	7 3.5
	女	63 100.0	25 39.7	1 1.6	9 14.3	0 0.0	24 38.1	1 1.6	3 4.8
	回答なし	5 100.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	4 57.1	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	11 52.4	0 0.0	4 19.0	0 0.0	6 28.6	0 0.0	0 0.0
	60歳代	136 100.0	56 41.2	6 4.4	18 13.2	3 2.2	50 36.8	0 0.0	3 2.2
	70歳代以上	102 100.0	47 46.1	2 2.0	13 12.7	3 2.9	28 27.5	2 2.0	7 6.9
	回答なし	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	118 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	0 0.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	0 0.0	0 0.0	38 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	88 100.0	0 0.0	0 0.0
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 100.0

F いままで行った活動（現在も含めて）で、あてはまるものすべてに○をつけてください。

		合計	町内会・自治会の役員	小中高PTAの役員	防犯協会の役員	保護司	民生委員・児童委員	子供会等の役員	その他	回答なし
全体		854	213 78.9	190 70.4	86 31.9	44 16.3	63 23.3	127 47.0	129 47.8	2 0.7
性別	男	611	165 81.7	134 66.3	74 36.6	26 12.9	36 17.8	86 42.6	89 44.1	1 0.5
	女	226	43 68.3	52 82.5	11 17.5	16 25.4	27 42.9	40 63.5	36 57.1	1 1.6
	回答なし	17	5 100.0	4 80.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	4 80.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3
	40歳代	16	3 42.9	1 14.3	2 28.6	3 42.9	0 0.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0
	50歳代	55	15 71.4	15 71.4	5 23.8	1 4.8	2 9.5	9 42.9	8 38.1	0 0.0
	60歳代	422	107 78.7	100 73.5	32 23.5	18 13.2	35 25.7	64 47.1	65 47.8	1 0.7
	70歳代以上	357	88 86.3	74 72.5	47 46.1	22 21.6	25 24.5	52 51.0	49 48.0	0 0.0
	回答なし	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	360	92 78.0	77 65.3	43 36.4	15 12.7	25 21.2	46 39.0	60 50.8	2 1.7
	少年警察協 助員のみ	29	7 87.5	7 87.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	7 87.5	5 62.5	0 0.0
	少年指導委 員のみ	120	29 76.3	28 73.7	12 31.6	4 10.5	10 26.3	19 50.0	18 47.4	0 0.0
	少年補導員 と少年警察 協助員	20	5 83.3	5 83.3	1 16.7	2 33.3	2 33.3	2 33.3	3 50.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	275	70 79.5	63 71.6	21 23.9	19 21.6	21 23.9	43 48.9	38 43.2	0 0.0
	少年警察協 助員と少年 指導委員	6	0 0.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0
	すべて	44	10 440.0	8 80.0	7 70.0	3 30.0	4 40.0	8 80.0	4 40.0	0 0.0

(2)街頭補導の活動状況×性別・年代・委嘱されている役割

G あなたは、過去1年間に約何回、街頭補導に参加されましたか。

		合計						回答なし
			1回もない	10回未満	10回～20回 未満	20回～30回 未満	30回以上	
全体		270 100.0	11 4.1	129 47.8	85 31.5	26 9.6	17 6.3	2 0.7
性別	男	202 100.0	7 3.5	101 50.0	64 31.7	19 9.4	9 4.5	2 1.0
	女	63 100.0	4 6.3	27 42.9	18 28.6	6 9.5	8 12.7	0 0.0
	回答なし	5 100.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	1 14.3	4 57.1	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	2 9.5	9 42.9	8 38.1	2 9.5	0 0.0	0 0.0
	60歳代	136 100.0	4 2.9	71 52.2	41 30.1	10 7.4	8 5.9	2 1.5
	70歳代以上	102 100.0	4 3.9	41 40.2	35 34.3	13 12.7	9 8.8	0 0.0
	回答なし	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
委嘱されている 役割	少年補導員のみ	118 100.0	5 4.2	61 51.7	33 28.0	13 11.0	5 4.2	1 0.8
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	0 0.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	5 13.2	17 44.7	9 23.7	4 10.5	3 7.9	0 0.0
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	0 0.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	1 1.1	35 39.8	34 38.6	8 9.1	9 10.2	1 1.1
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	0 0.0	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

H その参加回数は、あなたの地域で行われた街頭補導回数の何割くらいになりますか。

		合計	H				回答なし
			3割以下	4割～6割 未満	6割以上	わからない	
全体		270 100.0	41 15.2	47 17.4	144 53.3	35 13.0	3 1.1
性別	男	202 100.0	30 14.9	37 18.3	109 54.0	23 11.4	3 1.5
	女	63 100.0	11 17.5	10 15.9	30 47.6	12 19.0	0 0.0
	回答なし	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	40歳代	7 100.0	0 0.0	1 14.3	4 57.1	2 28.6	0 0.0
	50歳代	21 100.0	1 4.8	2 9.5	15 71.4	3 14.3	0 0.0
	60歳代	136 100.0	24 17.6	25 18.4	68 50.0	17 12.5	2 1.5
	70歳代以上	102 100.0	15 14.7	17 16.7	57 55.9	12 11.8	1 1.0
	回答なし	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	23 19.5	29 24.6	54 45.8	11 9.3	1 0.8
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	1 12.5	1 12.5	5 62.5	1 12.5	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	6 15.8	4 10.5	18 47.4	9 23.7	1 2.6
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	0 0.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	8 9.1	10 11.4	56 63.6	13 14.8	1 1.1
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	3 30.0	2 20.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0

I 街頭補導のうち、全体の何割くらいを学校の先生と一緒にきましたか。

		合計	I				
			3割以下	4割～6割 未満	6割以上	わからない	回答なし
全体		270 100.0	184 68.1	22 8.1	16 5.9	32 11.9	16 5.9
性別	男	202 100.0	139 68.8	17 8.4	11 5.4	24 11.9	11 5.4
	女	63 100.0	42 66.7	5 7.9	3 4.8	8 12.7	5 7.9
	回答なし	5 100.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	40歳代	7 100.0	2 28.6	0 0.0	2 28.6	2 28.6	1 14.3
	50歳代	21 100.0	15 71.4	1 4.8	2 9.5	3 14.3	0 0.0
	60歳代	136 100.0	97 71.3	14 10.3	6 4.4	13 9.6	6 4.4
	70歳代以上	102 100.0	69 67.6	7 6.9	5 4.9	12 11.8	9 8.8
	回答なし	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	84 71.2	12 10.2	8 6.8	10 8.5
少年警察協 助員のみ	8 100.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
少年指導委 員のみ	38 100.0	21 55.3	2 5.3	4 10.5	10 26.3	1 2.6	
少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	4 66.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	
少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	59 67.0	7 8.0	4 4.5	10 11.4	8 9.1	
少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	
すべて	10 100.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	

J 街頭補導のうち、全体の何割くらいをPTAと一緒にきましたか。

		合計	J				
			3割以下	4割～6割 未満	6割以上	わからない	回答なし
全体		270 100.0	192 71.1	20 7.4	9 3.3	32 11.9	17 6.3
性別	男	202 100.0	146 72.3	18 8.9	5 2.5	23 11.4	10 5.0
	女	63 100.0	44 69.8	1 1.6	2 3.2	9 14.3	7 11.1
	回答なし	5 100.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	40歳代	7 100.0	2 28.6	1 14.3	2 28.6	2 28.6	0 0.0
	50歳代	21 100.0	15 71.4	2 9.5	1 4.8	3 14.3	0 0.0
	60歳代	136 100.0	96 70.6	12 8.8	4 2.9	17 12.5	7 5.1
	70歳代以上	102 100.0	76 74.5	5 4.9	2 2.0	9 8.8	10 9.8
	回答なし	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	85 72.0	11 9.3	5 4.2	10 8.5
少年警察協 助員のみ	8 100.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
少年指導委 員のみ	38 100.0	24 63.2	3 7.9	1 2.6	9 23.7	1 2.6	
少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	3 50.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	
少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	63 71.6	4 4.5	3 3.4	11 12.5	7 8.0	
少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
すべて	10 100.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	

K あなたが参加した街頭補導の、1回あたりの実施時間はどの程度でしたか。

	合計	K					
		1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間以上	回答なし	
全体	270 100.0	84 31.1	164 60.7	14 5.2	0 0.0	8 3.0	
性別	男	202 100.0	57 28.2	126 62.4	13 6.4	0 0.0	6 3.0
	女	63 100.0	25 39.7	36 57.1	0 0.0	0 0.0	2 3.2
	回答なし	5 100.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	1 14.3	6 85.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	6 28.6	13 61.9	1 4.8	0 0.0	1 4.8
	60歳代	136 100.0	47 34.6	81 59.6	5 3.7	0 0.0	3 2.2
	70歳代以上	102 100.0	29 28.4	62 60.8	7 6.9	0 0.0	4 3.9
	回答なし	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	34 28.8	73 61.9	7 5.9	0 0.0	4 3.4
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	1 12.5	7 87.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	14 36.8	20 52.6	3 7.9	0 0.0	1 2.6
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	31 35.2	50 56.8	4 4.5	0 0.0	3 3.4
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	3 30.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

L あなたが参加している街頭補導活動の実施時間帯についてお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	合計	L						回答なし
		早朝 (6:00 ~9:00)	昼間 (10: 00~13: 00)	夕方 (5:00 ~8:00)	夜間 (9:00 ~11:00)	深夜 (11: 00~翌1: 00)		
全体	378	50 18.5	41 15.2	221 81.9	56 20.7	2 0.7	8 3.0	
性別	男	283	39 19.3	30 14.9	161 79.7	46 22.8	1 0.5	6 3.0
	女	86	9 14.3	11 17.5	56 88.9	8 12.7	0 0.0	2 3.2
	回答なし	9	2 40.0	0 0.0	4 80.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0
年齢	30歳以下	3	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7	0 0.0	1 14.3	5 71.4	1 14.3	0 0.0	0 0.0
	50歳代	34	6 28.6	3 14.3	18 85.7	6 28.6	0 0.0	1 4.8
	60歳代	182	16 11.8	19 14.0	118 86.8	25 18.4	1 0.7	3 2.2
	70歳代以上	151	28 27.5	17 16.7	77 75.5	24 23.5	1 1.0	4 3.9
	回答なし	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	160	25 21.2	13 11.0	92 78.0	25 21.2	0 0.0
少年警察協 助員のみ	12	2 25.0	0 0.0	8 100.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	
少年指導委 員のみ	53	7 18.4	8 21.1	31 81.6	6 15.8	0 0.0	1 2.6	
少年補導員 と少年警察 協助員	11	1 16.7	3 50.0	5 83.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	126	14 15.9	14 15.9	74 84.1	20 22.7	2 2.3	2 2.3	
少年警察協 助員と少年 指導委員	3	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
すべて	13	0 130.0	3 30.0	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	

M あなたが参加している街頭補導活動の場所や時期についてお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください。

M-1 場所

		合計	駅前や繁華街	公園	祭りやイベントの会場	学校周辺	その他	回答なし
全体		708	190 70.4	146 54.1	190 70.4	130 48.1	47 17.4	5 1.9
性別	男	519	145 71.8	104 51.5	144 71.3	92 45.5	30 14.9	4 2.0
	女	175	42 66.7	39 61.9	43 68.3	34 54.0	16 25.4	1 1.6
	回答なし	14	3 60.0	3 60.0	3 60.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	5	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	40歳代	17	5 71.4	4 57.1	5 71.4	2 28.6	1 14.3	0 0.0
	50歳代	57	15 71.4	10 47.6	15 71.4	11	5 23.8	1 4.8
	60歳代	355	100 73.5	75 55.1	92 67.6	65 47.8	22 16.2	1 0.7
	70歳代以上	272	67 65.7	56 54.9	76 74.5	52 51.0	18 17.6	3 2.9
	回答なし	2	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	303	70 59.3	63 53.4	89 75.4	55 46.6	23 19.5
少年警察協 助員のみ	23	4 50.0	3 37.5	8 100.0	6 75.0	2 25.0	0 0.0	
少年指導委 員のみ	90	28 73.7	15 39.5	22 57.9	16 42.1	8 21.1	1 2.6	
少年補導員 と少年警察 協助員	12	5 83.3	1 16.7	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	247	74 84.1	55 62.5	59 67.0	45 51.1	13 14.8	1 1.1	
少年警察協 助員と少年 指導委員	8	1 50.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	
すべて	25	8	7	6	4	0	0	
		250.0	80.0	70.0	60.0	40.0	0.0	0.0

M-2 時期

		合計						回答なし
			卒業式後	夏休み明け	週末	年末年始	その他	
全体		431	54 20.0	74 27.4	84 31.1	64 23.7	136 50.4	19 7.0
性別	男	314	39 19.3	56 27.7	62 30.7	46 22.8	97 48.0	14 6.9
	女	106	13 20.6	17 27.0	19 30.2	16 25.4	36 57.1	5 7.9
	回答なし	11	2 40.0	1 20.0	3 60.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	40歳代	9	0 0.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	4 57.1	1 14.3
	50歳代	30	2 9.5	7 33.3	6 28.6	3 14.3	11 52.4	1 4.8
	60歳代	222	30 22.1	42 30.9	52 38.2	25 18.4	63 46.3	10 7.4
	70歳代以上	165	22 21.6	24 23.5	24 23.5	33 32.4	55 53.9	7 6.9
	回答なし	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	187	23 19.5	33 28.0	42 35.6	29 24.6	54 45.8
	少年警察協 助員のみ	9	0 0.0	1 12.5	3 37.5	0 0.0	5 62.5	0 0.0
	少年指導委 員のみ	63	8 21.1	14 36.8	11 28.9	7 18.4	20 52.6	3 7.9
	少年補導員 と少年警察 協助員	8	1 16.7	0 0.0	2 33.3	1 16.7	4 66.7	0 0.0
	少年補導員 と少年指導 委員	146	18 20.5	23 26.1	26 29.5	23 26.1	47 53.4	9 10.2
	少年警察協 助員と少年 指導委員	4	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	すべて	14	2	2	0	4	5	1
		140.0	20.0	20.0	0.0	40.0	50.0	10.0

N あなたは、1回の街頭補導につき、おおむね何人ほどの少年に声かけしたり、注意しましたか。

		合計	N					回答なし
			ほとんどない	1～2人	3～5人	6～9人	10人以上	
全体		270 100.0	73 27.0	74 27.4	75 27.8	14 5.2	23 8.5	11 4.1
性別	男	202 100.0	52 25.7	55 27.2	61 30.2	10 5.0	15 7.4	9 4.5
	女	63 100.0	21 33.3	18 28.6	12 19.0	4 6.3	6 9.5	2 3.2
	回答なし	5 100.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	3 42.9	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	4 19.0	3 14.3	6 28.6	3 14.3	3 14.3	2 9.5
	60歳代	136 100.0	41 30.1	43 31.6	34 25.0	6 4.4	7 5.1	5 3.7
	70歳代以上	102 100.0	22 21.6	27 26.5	32 31.4	5 4.9	12 11.8	4 3.9
	回答なし	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	29 24.6	35 29.7	32 27.1	6 5.1	9 7.6
少年警察協 助員のみ	8 100.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	
少年指導委 員のみ	38 100.0	10 26.3	9 23.7	12 31.6	1 2.6	3 7.9	3 7.9	
少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	27 30.7	22 25.0	26 29.5	4 4.5	8 9.1	1 1.1	
少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
すべて	10 100.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	

(3)街頭補導以外の非行防止活動××性別・年代・委嘱されている役割

0 あなたは、過去1年間に、以下のそれぞれの活動に何回ほど参加しましたか。

0-1 スポーツ・農業体験・社会奉仕活動など、青少年のための社会参加活動

		合計	0回	1～10回	11～20回	21～30回	31～40回	41～50回	51回以上	回答なし
全体		270 100.0	43 15.9	181 67.0	11 4.1	3 1.1	2 0.7	2 0.7	3 1.1	25 9.3
性別	男	202 100.0	34 16.8	135 66.8	8 4.0	2 1.0	2 1.0	1 0.5	2 1.0	18 8.9
	女	63 100.0	8 12.7	42 66.7	3 4.8	1 1.6	0 0.0	1 1.6	1 1.6	7 11.1
	回答なし	5 100.0	1 20.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	2 28.6	3 42.9	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	50歳代	21 100.0	6 28.6	10 47.6	1 4.8	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 14.3
	60歳代	136 100.0	23 16.9	94 69.1	4 2.9	0 0.0	2 1.5	1 0.7	1 0.7	11 8.1
	70歳代以上	102 100.0	9 8.8	74 72.5	6 5.9	1 1.0	0 0.0	1 1.0	1 1.0	10 9.8
	回答なし	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	18 15.3	79 66.9	6 5.1	1 0.8	1 0.8	0 0.0	2 1.7
少年警察協 助員のみ	8 100.0	1 12.5	7 87.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
少年指導委 員のみ	38 100.0	9 23.7	20 52.6	0 0.0	1 2.6	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 18.4
少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	0 0.0	5 83.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7
少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	15 17.0	58 65.9	5 5.7	1 1.1	0 0.0	2 2.3	1 1.1	1 1.1	6 6.8
少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
すべて	10 100.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

0-2 環境浄化活動（風俗店の看板撤去・ピンクビラはがしなど）

		合計								回答なし
			0回	1～10回	11～20回	21～30回	31～40回	41～50回	51回以上	
全体		270	146	72	2	0	0	0	0	50
		100.0	54.1	26.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	18.5
性別	男	202	105	56	2	0	0	0	0	39
		100.0	52.0	27.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.3
	女	63	36	16	0	0	0	0	0	11
		100.0	57.1	25.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.5
	回答なし	5	5	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	30歳代以下	3	3	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	7	5	2	0	0	0	0	0	0
		100.0	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳代	21	10	6	0	0	0	0	0	5
		100.0	47.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.8
	60歳代	136	81	34	0	0	0	0	0	21
	100.0	59.6	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	
70歳代以上	102	47	30	2	0	0	0	0	23	
	100.0	46.1	29.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.5	
	回答なし	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
委嘱されている役割	少年補導員のみ	118	63	30	0	0	0	0	0	25
		100.0	53.4	25.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.2
	少年警察協 助員のみ	8	7	1	0	0	0	0	0	0
		100.0	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	少年指導委 員のみ	38	21	9	0	0	0	0	0	8
		100.0	55.3	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.1
	少年補導員 と少年警察 協助員	6	1	0	0	0	0	0	0	5
	100.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	
少年補導員 と少年指導 委員	88	48	26	2	0	0	0	0	12	
	100.0	54.5	29.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	
少年警察協 助員と少年 指導委員	2	0	2	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
すべて	10	6	4	0	0	0	0	0	0	
	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

0-3 非行集団加入者や非行の進んだ少年等に対する、個別的で継続的な支援・補導（家庭訪問や生活指導など）

		合計								回答なし
			0回	1～10回	11～20回	21～30回	31～40回	41～50回	51回以上	
全体		270 100.0	171 63.3	30 11.1	5 1.9	1 0.4	2 0.7	0 0.0	0 0.0	61 22.6
性別	男	202 100.0	126 62.4	25 12.4	3 1.5	1 0.5	2 1.0	0 0.0	0 0.0	45 22.3
	女	63 100.0	40 63.5	5 7.9	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16 25.4
	回答なし	5 100.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7 100.0	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	21 100.0	15 71.4	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 23.8
	60歳代	136 100.0	92 67.6	15 11.0	2 1.5	1 0.7	2 1.5	0 0.0	0 0.0	24 17.6
	70歳代以上	102 100.0	56 54.9	12 11.8	3 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	31 30.4
	回答なし	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	118 100.0	79 66.9	8 6.8	2 1.7	1 0.8	2 1.7	0 0.0	0 0.0
	少年警察協 助員のみ	8 100.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	少年指導委 員のみ	38 100.0	19 50.0	5 13.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 36.8
	少年補導員 と少年警察 協助員	6 100.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 66.7
	少年補導員 と少年指導 委員	88 100.0	55 62.5	14 15.9	3 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	16 18.2
	少年警察協 助員と少年 指導委員	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	すべて	10 100.0	8 80.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0

P 以下の活動の中で、今後してみたい活動がありましたら、あてはまるものすべてに○をつけてください。

	合計										
		特定の少年 について家 庭訪問や継 続補導をし てみたい	深夜など、 今の補導の 時間帯以外 でも、補導 してみたい	現在決めら れている場 所だけでなく、別の場 所でもして みたい	少年の親 に対し て、補導 したい	非行・不良 行為少年の 居場所をつ くりたい	地域で子ど もに対する 声かけ運動 をしてみたい	サイバーパ トロール 等、イン ターネット 関係の活動 をしてみたい	その他	回答なし	
全体	520	28 10.4	70 25.9	87 32.2	37 13.7	86 31.9	121 44.8	49 18.1	27 10.0	15 5.6	
性別	男	392	22 10.9	58 28.7	66 32.7	30 14.9	60 29.7	90 44.6	38 18.8	15 7.4	13 6.4
	女	119	6 9.5	11 17.5	20 31.7	6 9.5	24 38.1	29 46.0	10 15.9	11 17.5	2 3.2
	回答なし	9	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	6	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	11	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	4 57.1	3 42.9	1 14.3	1 14.3	
	50歳代	40	1 4.8	4 19.0	8 38.1	3 14.3	7 33.3	5 23.8	8 38.1	2 9.5	2 9.5
	60歳代	271	11 8.1	43 31.6	41 30.1	24 17.6	51 37.5	57 41.9	25 18.4	15 11.0	4 2.9
	70歳代以上	191	14 13.7	21 20.6	37 36.3	10 9.8	28 27.5	52 51.0	13 12.7	9 8.8	7 6.9
	回答なし	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	228	15 12.7	28 23.7	39 33.1	15 12.7	37 31.4	52 44.1	20 16.9	14 11.9
少年警察協 助員のみ		12	0 0.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5
少年指導委 員のみ		63	1 2.6	11 28.9	12 31.6	6 15.8	8 21.1	16 42.1	3 7.9	4 10.5	2 5.3
少年補導員 と少年警察 協助員		11	1 16.7	0 0.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0
少年補導員 と少年指導 委員		179	9 10.2	28 31.8	30 34.1	10 11.4	33 37.5	42 47.7	18 20.5	7 8.0	2 2.3
少年警察協 助員と少年 指導委員		7	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
すべて		20	2 20.0	1 10.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	4 40.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0

(4)少年警察ボランティア活動に対する意識や意見等××性別・年代・委嘱されている役割

Q 少年警察ボランティアを始めたきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

		合計	先輩の補 導員に誘 われた	町内会・ 自治会等 の役員に 頼まれた	警察官・ 警察職員 に頼まれ た	保護司、防 犯協会等の ボランティ ア活動をつ うじて頼ま れた	自ら進ん で始めた	その他	回答なし
全体		340	148 54.8	46 17.0	82 30.4	21 7.8	11 4.1	28 10.4	4 1.5
性別	男	251	113 55.9	34 16.8	61 30.2	14 6.9	9 4.5	17 8.4	3 1.5
	女	83	33 52.4	11 17.5	20 31.7	6 9.5	2 3.2	10 15.9	1 1.6
	回答なし	6	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	4	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	40歳代	7	1 14.3	0 0.0	4 57.1	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	32	17 81.0	6 28.6	6 28.6	3 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60歳代	166	81 59.6	17 12.5	40 29.4	8 5.9	4 2.9	15 11.0	1 0.7
	70歳代以上	130	48 47.1	23 22.5	30 29.4	8 7.8	5 4.9	13 12.7	3 2.9
	回答なし	1	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	147	65 55.1	17 14.4	37 31.4	7 5.9	5 4.2	14 11.9
少年警察協 助員のみ	10	5 62.5	2 25.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	
少年指導委 員のみ	47	21 55.3	4 10.5	11 28.9	5 13.2	1 2.6	4 10.5	1 2.6	
少年補導員 と少年警察 協助員	8	2 33.3	1 16.7	4 66.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	112	50 56.8	18 20.5	23 26.1	8 9.1	4 4.5	8 9.1	1 1.1	
少年警察協 助員と少年 指導委員	2	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
すべて	14	4 40.0	4 40.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	

R 少年警察ボランティア就任時の気持ちに近いものを選んでください。あてはまるものすべてに○をつけてください。

		合計									
			地域や社 会に貢献 できる	やりがい がある	仕事やこれ までの経験 を生かせる	自分が成 長したい	断り切れ なかった	自分に務 まるか不 安	家族の協力 が得られる か不安	その他	回答なし
全体		578	209 77.4	79 29.3	94 34.8	66 24.4	52 19.3	49 18.1	8 3.0	18 6.7	3 1.1
性別	男	426	159 78.7	58 28.7	70 34.7	45 22.3	43 21.3	32 15.8	5 2.5	12 5.9	2 1.0
	女	140	45 71.4	20 31.7	22 34.9	19 30.2	8 12.7	17 27.0	2 3.2	6 9.5	1 1.6
	回答なし	12	5 100.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	6	2 66.7	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	14	5 71.4	3 42.9	2 28.6	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0
	50歳代	34	18 85.7	2 9.5	3 14.3	2 9.5	4 19.0	3 14.3	1 4.8	1 4.8	0 0.0
	60歳代	286	103 75.7	33 24.3	52 38.2	30 22.1	24 17.6	30 22.1	3 2.2	10 7.4	1 0.7
	70歳代以上	236	81 79.4	39 38.2	36 35.3	32 31.4	23 22.5	14 13.7	4 3.9	5 4.9	2 2.0
	回答なし	2	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	257	92 78.0	33 28.0	39 33.1	28 23.7	27 22.9	21 17.8	5 4.2	10 8.5
少年警察協 助員のみ		16	5 62.5	3 37.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
少年指導委 員のみ		73	29 76.3	7 18.4	13 34.2	6 15.8	8 21.1	7 18.4	1 2.6	2 5.3	0 0.0
少年補導員 と少年警察 協助員		12	4 66.7	1 16.7	3 50.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
少年補導員 と少年指導 委員		198	72 81.8	33 37.5	34 38.6	26 29.5	9 10.2	16 18.2	2 2.3	5 5.7	1 1.1
少年警察協 助員と少年 指導委員		4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
すべて		18	7 70.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0

8 少年警察ボランティア活動で次のようなやりがいや喜び、達成感を感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	合計													
		社会や地域、制度への理解が深まること	相手に喜ばれたり感謝されたりすること	相手の課題と一緒に考え解決すること	相手の成長を感じること	相手に頼りにされること	仕事の経験が生きること	自分の成長を感じること	仲間がでること	後輩ボランティアに頼りにされること	ボランティア以外の人の輪が広がること	その他	回答なし	
全体	878	167 61.9	92 34.1	61 22.6	79 29.3	43 15.9	46 17.0	54 20.0	158 58.5	35 13.0	121 44.8	17 6.3	5 1.9	
性別	男	640	125 61.9	70 34.7	48 23.8	54 26.7	30 14.9	32 15.8	36 17.8	112 55.4	28 13.9	91 45.0	10 5.0	4 2.0
	女	219	39 61.9	21 33.3	11 17.5	22 34.9	13 20.6	12 19.0	16 25.4	44 69.8	7 11.1	28 44.4	5 7.9	1 1.6
	回答なし	19	3 60.0	1 20.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0
年齢	30歳代以下	4	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	20	3 42.9	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	0 0.0	2 28.6	5 71.4	0 0.0	4 57.1	1 14.3	0 0.0
	50歳代	52	16 76.2	3 14.3	3 14.3	7 33.3	5 23.8	1 4.8	2 9.5	8 38.1	2 9.5	4 19.0	1 4.8	0 0.0
	60歳代	418	78 57.4	43 31.6	34 25.0	36 26.5	16 11.8	29 21.3	25 18.4	80 58.8	12 8.8	57 41.9	6 4.4	2 1.5
	70歳代以上	383	68 66.7	45 44.1	22 21.6	35 34.3	21 20.6	16 15.7	23 22.5	64 62.7	21 20.6	56 54.9	9 8.8	3 2.9
	回答なし	1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	379	68 57.6	40 33.9	28 23.7	32 27.1	20 16.9	24 20.3	21 17.8	70 59.3	14 11.9	50 42.4	9 7.6
少年警察協 助員のみ	22	3 37.5	1 12.5	3 37.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	5 62.5	2 25.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	
少年指導委 員のみ	100	20 52.6	10 26.3	4 10.5	9 23.7	3 7.9	8 21.1	7 18.4	15 39.5	4 10.5	14 36.8	5 13.2	1 2.6	
少年補導員 と少年警察 協助員	20	4 66.7	3 50.0	0 0.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	4 66.7	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	308	63 71.6	32 36.4	22 25.0	28 31.8	14 15.9	11 12.5	22 25.0	58 65.9	10 11.4	44 50.0	3 3.4	1 1.1	
少年警察協 助員と少年 指導委員	5	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	
すべて	44	7 70.0	6 60.0	4 40.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	6 60.0	3 30.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	

† 少年警察ボランティア活動で次のような悩みや不安、負担や不満を感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	合計	相談者や相手方との接し方	仕事との両立	活動時間の確保	活動経験の少なさ	制度の理解不足	ボランティア同士の交流の少なさ	関係機関（警察）との交流の少なさ	研修の機会を増やして欲しい	精神的負担が大きい	時間的負担が大きい	経済的負担が大きい	家族の協力が得られない	相談できる相手や窓口がない	その他	回答なし
全体	584	58 21.5	53 19.6	71 26.3	29 10.7	41 15.2	84 31.1	57 21.1	63 23.3	8 3.0	22 8.1	6 2.2	1 0.4	2 0.7	48 17.8	41 15.2
性別	男	458 24.3	49 22.3	45 29.2	59 8.4	17 14.4	29 33.7	47 23.3	47 23.3	7 3.5	19 9.4	6 3.0	1 0.5	2 1.0	32 15.8	30 14.9
	女	114 14.3	9 9.5	6 14.3	9 17.5	11 19.0	12 25.4	16 15.9	10 25.4	1 1.6	2 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 20.6	9 14.3
	回答なし	12 0.0	0 40.0	2 60.0	3 20.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 20.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0
年齢	30歳以下	4 33.3	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	40歳代	14 28.6	2 42.9	3 28.6	2 0.0	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3
	50歳代	42 9.5	2 28.6	6 38.1	3 14.3	2 9.5	5 23.8	6 28.6	4 19.0	0 0.0	2 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 14.3	1 4.8
	60歳代	296 20.6	28 26.5	36 25.7	35 10.3	14 15.4	21 31.6	43 19.1	26 24.3	33 3.7	10 7.4	2 1.5	0 0.0	1 0.7	23 16.9	19 14.0
	70歳以上	227 24.5	25 7.8	8 25.5	12 11.8	17 16.7	36 35.3	23 22.5	25 24.5	3 2.9	9 8.8	3 2.9	1 1.0	1 1.0	20 19.6	18 17.6
	回答なし	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0
	委嘱されている役割	少年補導員のみ	249 21.2	25 23.7	28 23.7	11 9.3	17 14.4	39 33.1	20 16.9	29 24.6	5 4.2	11 9.3	3 2.5	0 0.0	1 0.8	17 14.4
少年警察協 助員のみ	14 50.0	4 25.0	2 37.5	3 0.0	0 0.0	0 25.0	2 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 12.5	
少年指導委 員のみ	73 13.2	5 15.8	6 26.3	10 15.8	6 21.1	8 21.1	8 18.4	7 13.2	5 2.6	1 0.0	0 0.0	0 2.6	1 0.0	9 23.7	7 18.4	
少年補導員 と少年警察 協助員	16 16.7	1 0.0	0 0.0	0 16.7	1 50.0	3 66.7	4 33.3	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	
少年補導員 と少年指導 委員	205 21.6	19 18.2	16 33.0	29 9.1	8 13.6	12 31.8	28 26.1	23 26.1	23 1.1	10 11.4	2 2.3	0 0.0	0 0.0	19 21.6	15 17.0	
少年警察協 助員と少年 指導委員	5 100.0	2 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
すべて	22 20.0	2 10.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	2 20.0

自由記述

※ アンケート回答を原文のまま記載

※ 個人情報に関わる内容については適宜修正した。

①F これまでの活動経験

- ・PTAOB 会役員 ・子ども権利委員 ・地域教育会議事務副局長コーディネーター
- ・地域型スポーツクラブ役員 ・寺子屋実行委員長 ・青パト ・市消防団幹部
- ・地裁委員 ・消防団 ・サッカー協会役員 ・青年会議所役員、ロータリークラブ会長
- ・犯罪被害者支援連絡協議会役員 ・交通安全母の会 ・少年補導員 ・社会福祉活動員
- ・交通安全母の会、交通安全協会（代議員）、地域安全推進委員、安全安心見守り隊、少年育成推進委員、自主防災組織連絡会
- ・市少年健全育成委員、地域安全推進委員、地域防犯委員、麻薬・覚せい剤・シンナー禍対策推進員、更生保護協会監事、警察協議会委員、風俗環境保全協議会委員、県&市安全・安心まちづくり推進協議会委員
- ・宅地建物取引業協会本部理事、不動産協同組合理事長、街づくり協議会会長、ロータリークラブ副会長・会長 ・県薬物乱用防止指導員
- ・消防団、青少年育成協議会推進指導員、交通安全指導員
- ・消防団員 ・人権擁護委員 ・県社会教育委員
- ・地区防犯団体連合会安全モニター委員 ・市教育委員会育成市民会議会長
- ・公民館運営審議員、学校運営協議会会長、自主防災会会長、防災士会役員、薬物乱用防止指導員、学童野球連盟会長、イルミネーション実行委員会代表、スポーツ少年団役員
- ・交通安全協会の役員、市教育委員会の少年指導員 ・消防団・いじめ対策委員、学校運営委員・市一般廃棄物処理基本計画改定の専門部会委員
- ・防犯隊役員 ・社会福祉協議会役員 ・公民館役員
- ・社会環境浄化推進員、地域学校協働活動推進委員、市社会福祉協議会、市人権教育啓発推進委員、市男女共同参画審議会、市暴力追放推進協議会、市犯罪被害者支援連絡協議会、市交通対策協議会、市地区推進委員会「社会を明るくする運動」、市少年補導連絡協議会（顧問）、少年補導連絡協議会理事、市子ども育成支援協会、青少年育成協会
- ・警察署協議会会長、放課後子供教室役員、女性問題アドバイザー、生活学校副会長、青少年健全育成協議会役員、社会福祉法人海印寺徳寿会竹の里ホーム評議委員、社会教育委員、社会環境浄化推進員、部落解放、人権政策確立要求市実行委員
- ・町内会の青年団 ・市少年愛護センター運営委員、青少年育成市民会議委員等
- ・交通安全指導員、地域交通安全活動推進委員、地域安全活動推進委員
- ・社会福祉協議会副会長 ・中学校評議員 ・公民館長
- ・青少年育成協議会推進指導員、地域安全推進員、地区小学校区交通安全会議
- ・地区コミュニティ協議会役員、地区スポーツ振興会役員、神社総代役員
- ・青少年育成指導者、暴力追放市民協議会幹事、青少年健全育成市民大会実行委員、青少年問題・いじめ問題対策連絡協議会委員 ・スポーツ少年団指導員
- ・福祉施設の評議員 ・交通安全協会女性部長
- ・青年会議所、社会福祉協議会、体育協会、剣道連盟、まちづくり団体、商工会議所

- ・ボーイスカウト育成会長、民生児童委員・地区長→社会福祉協議会副会長
- ・更生保護女性会役員、農業委員、JA女性会役員、選挙管理委員、警察協議会委員、地域の運営推進委員　・小学校学校・地域コーディネーター　・青少協役員
- ・交通連絡協議会、地域交通安全活動推進委員、地区暴力追放運動推進協議会、消防団、校区交通安全会議、交通安全指導員、農協理事、農業委員　・体育協会役員
- ・スクールガード、神社役員　・青少年健全育成協議会役員　・学校運営協議会委員（小学校・高校）　・学園教育推進会議委員（中学校）
- ・県家庭教育支援「親の力」をまなびあう学習プログラムのファシリテーター、家庭教育講座　幼稚園、学校等の保護者・PTA 研修・子育てに関する様々な「場」で講座を実施
- ・青少年指導員　・青少年育成員　・中央育成員　・福祉を高める会役員　・交通安全協会女性部員　・女性消防団員
- ・地区教育後援会々長、地区社会福祉協議会々会長、地区交流センター運営審議員、地域・市活性化事業ボランティア団体事務局長、県知事公聴会地域代表
- ・県青少年相談員・BBS活動・サッカー指導・離子こども教室
- ・婦人会役員、老人会役員
- ・商工会　法人会　ライオンズクラブ　NPO法人　観光協会　商店街
- ・薬物乱用防止指導員　サイバーパトロール　・県立学校運営協議会委員　・中学校運営協議会委員　・福祉法人第三者委員　・警察署評議会委員　・市人権まちづくり委員
- ・消防団員
- ・社会を明るくする運動推進委員、地区体育振興会、中学校区健全育成協議会員　スポーツ推進委員、青少年育成補導員
- ・相撲連名会長、消防団長、市上場土地改良区理事、JA 会計、JA 部会長、少年補導員会長　・交通安全母の会役員　被害者支援センター理事
- ・県交通安全協会支部　・県地域交通安全活動推進委員（県公安委員会）
- ・市消防団（副団長）、神社総代、県暴力追放相談委員
- ・市スポーツ少年団本部長、青少年育成市民会議会長
- ・地区ソフトボール協会会長、スポーツ協会理事
- ・市スポーツ協会常任理事、市スポーツ少年団副団長、暴力団追放協議会理事
- ・人権擁護委員、教育委員、学校評議委員、学校運営協議会委員、青少年育成県民会議監事、青少年育成市民会議推進委員、青少年育成アドバイザー県連絡協議会副会長、社会教育委員、公民館審議委員　・消防団、農業委員、青少年相談員
- ・市青少年問題協議会委員　・市まちぐるみ子供安全連絡会議委員　・市小学校学校評議員　・市安全安心まちづくり推進協議会委員　・県麻薬覚醒剤対策協議会委員　・県薬物乱用防止指導員　・県社会を明るくする運動推進委員　・駐在所連絡会議委員
- ・青少年指導員会長　・地区子どもクラブ指導者連絡協議会役員　・青少年育成協議会役員
- ・市教育委員会社会教育主事・公民館長、地域生活支援相談員・社会福祉協議会役員・青少年育成協議会役員

- ・消防団員、青少年相談員、防犯指導員、地区社協役員
- ・体育指導委員 社会福祉協議会理事 交通規制審議会会長 交通安全協会支部長 防犯協議会役員 職場防犯管理協会副会長 青少年健全育成会役員
- ・地域スポーツ団体役員、地域文化協会役員、美術協会役員
- ・薬物乱用防止指導員
- ・小学校周年記念事業期成会役員 中学校周年記念事業期成会役員 高校周年記念事業期成会役員 高校同窓会役員 ・被害者支援センター支援活動員
- ・青少年指導員 ・社会福祉協議会役員 ・福祉のまち推進センター役員
- ・自治体の少年補導員 薬物乱用防止指導員
- ・学校クラブ活動の講師（華道） 学校心のボランティア
- ・商工会議所青年部（YEG）会長及び県連会長 ・幼稚園 PTA 会長
- ・商工会理事、消防団分団長、発展会会長、法人会役員、青年会議所理事長
- ・防犯 ・少年指導員 青色防犯パトロール隊 ・地区の子ども達の土・日のうけ皿活動のスタッフ ・僧侶の青年会活動 ・坐禅会の実行委員やスタッフ
- ・商工会議所の役員、青年会議所の役員、ロータリークラブの役員、スポーツ推進委員の役員、法人会の役員 ・青少年健全育成協議会の役員（理事）
- ・人権擁護委員 ・母子保健推進委員 ・小学校運営委員 ・地区人権部落差別撤廃啓発推進協議会会長 ・青少年生活指導協議会
- ・社会教育委員 ・文科省シンポジウムパネリスト ・市教委生涯学習指導者 ・文化創造教室講師 ・教育局パネリスト ・市交通指導員・市立中学校評議員
- ・中学校運営協議会、中学校協力者会、学童保育運営委員、青少年健全育成協議会、子どもの安全を守る会、警署協議会、薬物乱用防止指導員、（青色回転灯パトロール）、地区社会福祉協議会
- ・自主防災会役員、校区交通安全会議役員、青少年育成協議会役員、人権推進委員会役員、消防後援会役員、日本赤十字社市地区役員、市交通安全指導員、地区町内会連合会役員、市廃棄物減量推進員
- ・調停委員、児童虐待防止活動 ・青育連・男女協役員 ・学校の生徒指導担当。
- ・全国中小企業連合中央会青年部役員 釦服飾手芸 ・消防団員 ・社会福祉協議会
- ・社会福祉協議会役員 ・交通安全協会員、身体障害者雇用推進員、民族芸能文化財保存会役員、同窓会本部役員
- ・防犯協会女性部員、市補導センター（支援センター）、地区社協役員
- ・公民館長、区長 ・町会長 ・町会連合会会長 ・警察署協議会委員など
- ・防災士（子供達に防災についての啓発）
- ・ボーイスカウト（活動） ・ネイチャーゲーム協会（活動） ・消防団員
- ・社会福祉法人理事、県北支部事務局長
- ・県薬物乱用防止指導員 ・NPO 法人で子供居場所づくり 農作業やその他活動
- ・小・中学生と共に清掃活動 公園等遊具のらくがき消し 薬物乱用防止教室
- ・県スクールガードリーダー ・自衛隊家族会役員 剣道連盟関係役員
- ・スポーツ少年団会長 ・安全運転管理者協会役員 小中学校評議員 公民館運営委員会

- 役員 ・ 地区青少年対策委員会委員長
- ・ 暮らしの見守り隊、老人給食ボランティア、放課後子供教室
- ・ 青年団、青年団 OB 会、(財)青年会館理事長、県レクリエーション協会
- ・ JC (青年会議所)、まつり実行委員長、青少年育成
- ・ 市青少年健全育成委員、地区青少年健全育成委員、県麻薬・覚醒剤・シンナー禍対策推進員
- ・ 青少年指導員 青少年福祉委員会 防災リーダー
- ・ 青少協会長、区少年補導等連絡会代表、子ども食堂副代表、里親、ファミリーホーム養育者、地域各種団体役員
- ・ 薬物乱用防止推進委員 ・ 補導委員
- ・ 市委任青少年育成協議会、スポーツ少年団役員
- ・ 薬物乱用防止指導員、市より委嘱された少年補導員、点訳ボランティア、小学校書道指導・ボランティア、外国人の子どもに日本語を教えるボランティア
- ・ ボーイスカウト指導者 学校運営委員

②P 今後してみたい活動

- ・ 子供に対する声かけ運動は現在地域と学校で実施しています。制約あるなかでは難しい面があります。
- ・ 小・中学校での先生方との話し合いの場をもっても、学校にはスクールワーカー等の先生がいるので…とストップされてしまう。又、保護司には話しても、少年警察補導員には上辺だけの話しかしない。
- ・ 10月から青パト隊を結成して、下校時の声掛事案を抑止する、少年補導員青パト抑止隊の結成を計画しております。
- ・ スポーツを通して子供達と関わる
- ・ 関係機関と連携して活動を推進していきたい。(補導委員会、少年サポートセンター、ユースサポーター、学校、近隣少年補導委員会との情報交換)
- ・ 防犯・サイバー教室の他に性教育活動
- ・ 少年指導委員
- ・ 子ども食堂
- ・ 幼児や小学校低学年への防犯教室(紙芝居や人形劇など)
- ・ 農業体験事業推進実施
- ・ 気持ちはあるが、私自身の高齢化で、夜などの活動を控え、現在は毎朝登校時の声かけに励んでいる。
- ・ 十分な活動が出来ていないので現状の活動を充実させて行きたい。
- ・ 非行・ひきこもり少年の居場所作りと働く場所のマッチング。
- ・ 全少協のネット相談窓口を経験したことがあるが、専門的な知識より相談者へ返す回答が責任の重みを感じた。
- ・ 子どもとのディスカッション
- ・ 会員拡大

- ・近年は公園等の公共の場所に集合しての少年非行の状況が無に等しい。コロナ感染の影響もあり室内で集まりスマホを使用する等で、見えない非行につながっていると思われる。健全な大人と会話出来る場所が重要である。
- ・自分の経験が役に立つことであれば関わってみたい。
- ・いろいろと活動してみましたが大変です。少年の意見を良く聞きとりスキンシップをとる事が大事。
- ・自分の専門分野（音楽）を活用した活動をしたい。例、ミニコンサート、楽器の体験
- ・学校訪問をして顔を覚えてもらいたい
- ・大麻等薬物乱用防止活動

③Q ボランティア開始のきっかけ

- ・中学校の先生に頼まれた。
- ・学校長からのお話
- ・福祉ボランティア活動の延長 BBS 会の活動
- ・当時（平成元年）市教育委員会の推薦をいただく
- ・町教育委員会からの推せん
- ・自治体の首長の推せんにより
- ・PTA 会長になり、充て職として
- ・父が保護司、教育委員をしていたので進められて始めました
- ・市役所（当時町役場）職員から依頼を受けた。
- ・小学校長に頼まれた
- ・母が亡くなったあと引き継いだ
- ・PTA 後に先輩から誘われた。
- ・PTA 活動で補導員をし、その後 PTA 活動が終っても、活動をしていたもの。
- ・当時の市役所（青少年課）頼まれました
- ・遠隔地での勤務がなくなり居住地から通勤可能となったため。
- ・振興地域の新設学校で、校長先生から依頼があった。
- ・中学校の校長に誘われた
- ・PTA 活動の延長
- ・地元の小学校を通じて、公民館職員より頼まれた。
- ・PTA（中学）
- ・PTA 役員をしていてボランティアに推薦された
- ・PTA 会長（中学校）の時に、生徒向けの講師としていた警察の補導員より誘いを受けた
- ・PTA 役員をうけていたので、校長先生からのおさそいも有り。
- ・企業おける心身障害者雇用推進員の講習会（一週間）に参加がきっかけで昭和 48 年 9 月に知事より依頼状受与される、他、警察職場指導員、青少年育成推進員、国勢調査員、他、多数
- ・地元の小学校の校長に頼まれた
- ・国体監督として少年の指導の経験から（射撃）

- ・非行・不良行為少年の支援をしたいと思って始めました。

④R 就任時の気持ち

- ・少年警察ボランティアと言う立場で積極的に少年犯罪防止、抑止のため子供達に声をかけることができる。
- ・当時、息子小6年生、反抗期中、家族に相談し、特に息子に活動を説明して納得してもらい補導委員を受けました（息子も40才代、2女の父）
- ・仕事の中で問題のある少年少女と関わってきたので、少しでも経験を生かせると思い引受けました。
- ・息子が警察官になったので、親も少しはかかわりたいと思ったからです。
- ・その頃、地域が大変荒れていて、何かしなければという意見が地域からでてきて、何人かで協力しあいながら活動をはじめたもの
- ・次世代を担う青少年の育成は地域住民の義務であると思っている
- ・当時、子どもが中学生、PTAの役員をしていましたので、また青少年育成アドバイザーの資格も持っていましたから生かせると思いました
- ・平成10年は「第4の波」の時期だったと思う。JR駅前のコンビニまたはスーパーでの金髪少年の集団の存在に何とかしたいと思った。
- ・家族に2名警察官として御世話になっているため、協力していきたい気持ちであった。
- ・子ども達が幸せになれるように役に立てば良いと思った
- ・教育者や行政とは違う立場で少年たちに関わる必要がある。関わることで一人でも前向きに歩んでもらいたい。
- ・深く考えず地域の子供達に対して出来る事があるならと軽く受けました
- ・新たなボランティアを通じ、新たな人達と知り合える定員の少ないボランティアに参加することが有意義と思えた
- ・タバコ喫煙・飲酒をする少年達が周囲にいた為、何とか指導できないかと悩んでいた時に、補導員の勧誘を受けました。
- ・5番と関連するが、町教委社会教育課で青少年育成を担当していて、少年補導員活動を把握していた。青少年育成の大切さを人に語ってきて断れなかった。
- ・荒れた街の不良に立ち向かい話し合い理解し共有することに努めた（元アイスホッケー日本代表だったので力があったから）
- ・街頭で、不良行為少年と思われるグループを見かけると、何か相談に乗ってあげたいという気持ちが生じる。

⑤S やりがい・喜び・達成感

- ・立ち直り支援活動のなかで対象少年の親御さんが初めは距離がありました。接しているうちに打ち解け、最後には「こういう団体があるんですね、甘えてもいいんだという気持ちになりました、参加して良かった」そういう言葉をいただき嬉しかったです。
- ・街頭補導中、1年前に声かけた子どもたちから声をかけてくれる、現状の話を聞く。
- ・児童、生徒、青年たちに声をかけると、気持ちや現状、学校のこと、将来のこと、先生の

こと、いろんな話をしてくれ、とっても楽しい時間である

- ・サポートセンターの方たちと一緒に活動することで理解が深まった。ユースサポーターの方たちと一緒に活動することで、少年たちに年齢が近いことの有益さがわかった。
- ・注意などした子供達が立派に成長してくれたり、成長した子供達が頼ってくれることです。
- ・様々なことが経験でき感謝しています。
- ・直接対応した子どもが、街中で会った時気軽に声を掛けてくれ、立話し程度だが、嬉しかったです
- ・青少年が心を開いてくれた時
- ・県内他地域の方との交流、他地区へ行き体験させて頂き学んだりもできました
- ・少年達の服装に変化が見えた時、少年から笑顔で声をかけられた時、など。
- ・毎朝子ども達の様子でその子の朝の気分がわかるので甘やかしています
- ・保護司をしているので、関係する情報や知識が得られる。また、警察の関係者にもろもろ相談できる、結果、達成感につながる
- ・地域の一員として街づくり、特に治安に対して貢献できる事にやりがいを感じます
- ・不良行為少年らが立ち直っていく姿を見ることで達成感を感じる。
- ・②で親から「アリガトウ」と言われた。

⑥T 悩み・不安・負担・不満

- ・私は何のボランティア活動もしていないので、この役を受けている意味がないな、と申し訳なく思っています
- ・地域警察官や少年係警察官以外の警察官への少年警察ボランティア、補導員という立場で活動をする人が（委嘱された人）居る：活動をしているという理解の無さが不満
- ・良い先輩に恵まれ、活動中、個人的にもボランティアのお手本をみせていただきました。お陰様で不安、悩み、負担なく今日まで続ける事が出来ました。
- ・学校側は教育委員会が主導する少年補導協議会が PTA や地域と連携して活動しており、警察主導の活動との連携が少ない。
- ・特別に上記について考えた事はない。自分で責任をもって務めているつもり。
- ・特に感じたことがない。出会いと対話がとっても楽しい。現在の青少年問題、何とかしてあげたい、と思うことが多い。
- ・活動がマンネリになりもっと増したいがボランティアの参加が少ない。どうしても仕事をしている人は時間がとれない。名前だけの人もいるのが現状です。
- ・年配者が多すぎです。もうちょっと若手の人材を登用して欲しい。名刺の肩書き欲しさになってる人も多いのでは？
- ・自身の年齢が高くなってきたこと
- ・人が足りない
- ・コロナで活動の機会が減り、活動に協力してくれる人が少なくなった
- ・特に不安等を感じることはなく、やりがいのあるものと感じている。
- ・少年と接したい・話したい

- ・少年等に関する団体が種々あるが、すべて縦割で共助共力性が無い。地域のネットワーク作りが重要だと考える。以前、乳幼児の問題で幼保一元化を提唱された時代もあった。所轄庁の違いで不可能であった。現在公立の幼稚園に見る姿は悲惨である
- ・一市六町一村の地域、広域なこともあり揃っての交流はなかなかできませんでした。また地域により温度差もありますが、大会等は皆参加できたと思っています
- ・声かけの方法、内容等、これでいいのか確かめたい時がある。警察官との交流がもう少しあれば。
- ・子供の減少で集団非行は現時点では感じられない。ただ、個人的に学校への不登校やひきこもりなどは全国的に問題ですが田舎も同様である。
- ・少年非行がインターネット関連の比率が高くなって、なかなか有効な活動ができていない。
- ・活動費の徴収と、離島であるため理事会・研修・表彰等で本島への出張の際、一部補助もできるが、自己負担が生じてしまうことを補導員に申し訳なく思う。
- ・交流不足は、コロナ禍によるが活動へも影響する
- ・同じ委員が数十名います。イベント出席者が数名です。出席率を上げたいです。
- ・マイペースなので特にありません
- ・家族の理解協力、又、外部の方々のご指導により恵まれた環境にあり、おかげ様と感謝しております。私自身今まで健康でこれていることも多大だと存じます。
- ・コロナによりボランティア同士や警察の方々との交流が制限されていることが残念です。コロナが終息することを望んでいます。
- ・後継者が無く、あちらこちらに声かけするも、成り手が居ない。時代に合わないのかもと思悩む
- ・後を引き継ぐ人材の発掘が課題です。
- ・パワハラ・セクハラ等の訴えが頻発する状況となっているため、話しかけ（特に対象が少女の場合）が難しい状況です。
- ・ボランティア同士の会議、反省会等の場所が少ない（有料会場が多い）交流不足
IT（パソコン、SNS）が主流になっています。その対処の仕方がよくわかりません。
- ・少年たちのいない時間帯での（無意味な）補導にならないよう時間帯と場所を工夫していただきたい。
- ・少子高齢化
- ・負担や不満を感じた事はない。人と人とのつながりが出来て、感謝しています。
- ・スマホの普及で、繁華街やコンビニ、公園などに少年達が集まらなくなり、パトロールをしてもなかなか少年達と出会えなくなっている。
- ・仕事の関係で時間がとれない時、研修が日中が多いので参加がしにくい時がある。
- ・ボランティアの限界を感じる時がある。自分の知識のなさが原因と思われるが、個々違うので接し方がむづかしい。
- ・立ち直り農業支援活動をしているが、対象少年の参加が非常に少ないことを残念に思う。時間も短い。
- ・委員の年齢が高く後継者を見つけるのに苦労します

- ・コロナの影響で活動が制限されていたせいでボランティアの意識の低下がみられる

⑦U ボランティア活動に必要なこと

- ・相手の成長を感じる事。
- ・少年達との交流の場があれば良いのでは！
- ・活動の活性化
- ・人口減少、共働き家庭、コロナ感染症の影響など社会的環境の変化、又いじめや不登校、ひきこもり、貧困、虐待、SNS に関係する犯罪と多岐にわたる青少年に対する問題は変化してきています。しかし SNS や対面でのコミュニケーションツールを駆使して、学校、地域、会社関係等、絆を深め、社会ルールを守る規範意識の向上を大人も子どもも一緒に活動できる環境作りと思います。会社等職場から社会ルールを守る規範意識の向上に協力する体制を整えてほしいと思います。 ・時代の変化に応じた研修 ・大学生、高校生と協力しての活動、研修
- ・地域密着で顔が見える活動→出来るだけイベント等に顔を出す
- ・委嘱された方々は、できる限りそれぞれの活動に参加すること。
- ・活動を地域の方に知ってもらい、協力出来る体制作り。
- ・計画の形だけの補導活動だけでなく、実際に発生する少年犯罪の防止、抑止をする。サイバーや街頭での補導活動を積極的にしたい。
- ・少年警察ボランティア活動には、以下の要点が重要と考えます。子供たちとの関わりで熱意を持ち、責任感を持って行動することが大切。子供たちとの適切なコミュニケーション能力が必要。理解しやすく説明するだけでなく、決して上から目線ではなく、子供たちの気持ちに耳を傾けることが重要。少年ボランティアには法律や心理学などの基本的な知識が求められる。教育とトレーニングを受けて準備することが大切。警察や他のボランティアと連携して協力することが必要。チームワークを大切にし、連携を図る。子供たちと保護者からの信頼を築くため、信頼性と安全性を確保。プライバシー尊重と子供たちの安全を最優先に考える。子供たちに楽しさと学びを提供するために創造性を持ち込む。遊びを通じて学習とコミュニケーションを促進。状況に柔軟に適応する力が求められる。子供たちのニーズに合わせたアプローチを取り、対応する。保護者との連携も重要。親の意向を尊重し、協力関係を築くことが大切。これらの要点を念頭に置きながら、少年警察ボランティア活動を通じて学校、親、子供たち、警察と協力して育成し、地域社会に貢献することが目指すべき目標と考えます。 意見 サイバーパトロールを行う団体数、人数は、街頭補導を行うボランティアの数に比べて、圧倒的に数が足りていない状況にあります。現在は学生ボランティアが6割の状況ですが、時間的に余裕のある我々も、セミナー等により専門的な知識を身に付けた上で、サイバーパトロールを行っていく必要があるのではないかと思います。
- ・コミュニケーション能力を向上させること。若者達に関する法律知識を学ぶこと。専門的なトレーニング。以上のようなことが必要かと思われる。
- ・活動の見直し ・子供達の行動の変化、若い方の補導員の活動が難しい 啓発活動 ・活動のご案内を作成して説明しても市の補導員と間違われます。 ・補導員のお誘いの

時も利用しています。

- ・少年補導員を拝命してから、40年以上になります。近年補導員のなり手が少なく、補導員自体高齢者が多くなり、今後の補導活動に影響が出るように思います。原因の一つに、ボランティア活動のため、活動に対する基盤整備が少なくなっていることと、活動に対する少額でも良いので、交通費や活動援助金が必要だと思えます。近年同じボランティア活動である、保護司や民生委員には活動の補助が出ています。これらの団体と同じようにもう少し活動費の上乗せが必要だと思えます。2番目に身分の保障をお願いしたい。警察官が同行する場面では問題が起きても対応して頂けますが、自主的活動には、ボランティア保険などがありますが、万が一の場合の身分保障は必要だと思えます。3番目には、補導員のなり手が少ないと言って、あんに委嘱期間の年齢を上げて対応しても、実際に活動するには、活動員の体調や体力など第三者が活動ができるかの判断をしてほしい。4番目に、警察以外の団体との連携や相談ができるネットワークの必要性があると感じています。特に児童相談所と警察、保護司、民生委員児童委員、少年の健全育成を目的としたボランティア団体など民間や公的機関の綿密な相談や、対応が必要と考えます。地域には青少年問題を協議する連絡会などがありますが、単なる活動報告や、問題提起で終わっており、個別の問題を全体の問題と捉えて、解決する実質的な活動が望まれます。子どもの成長や保護、指導等は一カ所でできる物では無く、国民全体の課題として、目に見える連携や協力が必要だと思えます。
- ・SNS 犯罪に対応するため、研修会が必要になってくる。(SNSにより、どのような犯罪が増加していくのか知りたい。)
- ・集団で見守りをしているから、目を引くから良いと言われている。そうかも知れないが、1人じゃダメだけど、2、3人で分れて廻って、できれば、たわいのない言葉をかける、と言う行動も必要なのではないかな。
- ・少年警察ボランティアの後継者を捜そうとしても、何それ？という感じで受けてくれない。又、警察官の中にも知らない人がいる。認知度低くてもと思うが、やはり少しは認知してもらいたいと思う。私がボランティアを受けた頃に比べて、外で遊ぶ子どもたちが減っている、そのため、補導といって声かけをする場面が減っている。実際の補導で、こういう場面があった、こういう時はこうした、など、補導職員や生活安全課の課員の体験を聞くような研修があれば、と思う。
- ・非行、不良行為少年の居場所づくりが必要 ・教育委員会、学校、PTA との連携強化
サイバーパトロールに力を入れる必要があり、子供たちは、ゲームセンター、カラオケには居ないと感じます。
- ・ボランティア活動の高齢化。私たちの地域少年警察ボランティアの平均年齢は上がる一方で、一番若い人でも61才、これから若い人達にどの様に引き継いでいくのが、今後の課題です。若い人は仕事や家庭をもっている所以でボランティア活動をしている人は、ほとんど地域の自営業の方や定年を迎え仕事をしていない方ばかりです。
- ・大学生少年警察ボランティアで活躍している学生に感謝をしている。高齢者よりも若い青年、学生、女性の方が対象少年達には、心を開くと思っております。経験も大事ではありますが、対等な年齢者同志心を開きやすのではと感じております。

- ・昔と違って、補導に回っても子供たちの姿がみられない。外で悪さをする事が無い。まわってみると公園などで塾が終ったの一時を過ごしているようで、注意すると「今からも帰ります」と素直である。ゲームセンターは店の方々も協力的で何の問題はなく、こまり事もない様子です。これでいいのかなと皆と話した時、皆様が抑止力になるから回ることは必要だとおっしゃいました。
- ・仕事をしながらの方がいる場合、ボランティア活動への参加がしやすくなるよう、会社、事業所への協力要請 新しい人材の発掘方法
- ・県少協間において交流を深める 子供達の親、学校、教育委員会、少年サポートセンターとの交流をする。
- ・定期的な巡回、パトロールでは現在の陰湿化した非行はなかなか発見し難いが、四六時中見回っている訳にもいかず、しかし、こういった表面化の非行をなくして行くのが今後の課題のひとつではないかと思う。
- ・少年のインターネット使用におけるマナーアップの機会を増やす活動 ・関係機関や団体との連携を一層密にする ・若い会員に参加してもらう工夫
- ・地域警察及び自治会と連携した活動 PTA 活動等との街頭補導 地域住民との連携
当該組織の活動目的が青少年の健全なる育成にあることを考えると、現在及び近未来の社会情勢を反映させた青少年に対する啓蒙活動が必要と思う。具体的には、①SNSに関するものと②薬物乱用について青少年に啓蒙することが喫緊の課題と考える。しかしながら、いずれの事象も我々、一般市民である少年補導員にとっては門外感の分野であり、どのように少年たちに対応するのが得策かと考えあぐねている。よって、この分野での専門知識に裏打ちされたアプローチ法と伝えるべきキーポイントを我々に専門家（警察及び教育機関）に提供していただきたく思っている。それらを元に、青少年に警察より身近な（気軽な）一般人である我々、少年補導員からの啓蒙活動が生きてくると思われる。
- ・各地区、地域より選任された協会員とのコミュニケーションを今以上に必要であると思います。活動の目的を再認識して、積極的な姿勢で望めるようにしたいです。
- ・ボランティアの活動となれば”強要や強制”も無いので、その役職を頂く1人1人には温度差が感じられます。ほとんど活動に参加されない方や大人同志の会合にしか参加されない方。地域単位で限られた数のボランティアを選出する為に仕方の無い事かもしれませんが… 社会からの必要性和責任を感じ、情熱、熱意を持って日々の活動に取り組んでいきたいと思っています。
- ・親はしっかり子どもを育てる ・多様化、複雑化している現代社会の中で「親・大人」の教育（常識、道徳のない現在） ・地域（高齢化して来ていると思われる）力 おせっかいなおばちゃん うるさいおじちゃん、おばちゃん ・子どもたちに夢を持てる社会、そして夢が実現出来る社会に。 ・犯罪から守るには、子どもの育ちに大きく影響するのではないかと思う。親や大人の自己中心的な判読で子どもの存在が置きざりになっている（私は今の社会が許せない）
- ・継続することが大切である。
- ・時代と共に子供達の生活や意識も変化して来ており、外見や集合状況を見るだけでは、

良し悪しを判断できない現状です。それだけにこちらでも慎重且つ穏やかに声掛けして行く努力が必要と考えます。

- ・ボランティア活動を継続する為には、日々体調管理をしっかり行い、自分のペースで活動し、家族に迷惑のかからない範囲で活動する事で、長続き出来るのではと思います。
- ・保護司、防犯協会、民児協等、他のボランティア団体との情報交換や活動の連携など。決して名誉職ではない！！と考えます 肩書きが欲しい人にはなあってほしくはない。
- ・SNS、メール等で問題・犯罪の現状等の情報を警察発行の”少年警察ボランティア通信等”で発信してほしい。 ・地域連携協議会で各団体等より青少年の問題行動等の情報を収集・共有して地域全体で、子ども達が健全な育成の出来る地域となるような見守り活動に力を注ぎたい。更に他の支部間の交流を深めたい。
- ・普通に生活をしていて巻き込まれる子供を減してやれる様な活動。
- ・定期的な継続の広報活動
- ・地域の枠を外して欲しい。
- ・活動の中で、街頭補導や風俗店、ゲームセンター等の見廻りをしていますが、ここ数年、活動中、補導対象となる少年に遭う事がほとんどありません。特に喫煙、飲酒等は皆無です。喜ばしいではありますが、一方子供に対する虐待や少年が特殊詐欺にかかわり、自覚がないままに犯罪者となってしまう事例が急増しています。少年達が集まる場所、不良行為を行う現場や内容が以前とは大きく違ってきている事を感じます。補導に到らなくても、少年達に声を掛ける行為が「あなた達を見守っている人がいるよ」というメッセージになり、有意義だとは思いますが、今後は、活動内容も時代に合わせた方法を考えていく事も大切なのではと思います。
- ・これからはもっと若い世代に参加を呼びかけ、サイバーパトロールやインターネットに詳しい人材を増したい。
- ・自県は他県に比べて若者の自殺者が多い。遺書などもなく、誰に言うこともなく原因不明のケースも少なくない。子供たちは何故死のうとするのか？どうすれば防ぐことができるのか？ニュースを見る毎に、子供に関わるボランティアをしていると心が痛む。こどもは社会の未来そのものであるもので、ひとりでも多くの命を守ってあげられるような取り組みが必要だと思えます。
- ・私が少年補導員協議会に入った頃は、主に公園でたむろしてタバコを吸っている。物陰で金品をせびっている。遊技場に未成年者が入っていないか。などの行為が主眼の対象でした。しかし今は、少年犯罪の対象が多種にわたり、私のような高齢者には手に負えないと感じる事が多くあります。薬物使用の若年層化、男女人格の対処の難しさ、通信機器の使用犯罪、これが少年の行為かと驚く事があります。繁華街で少年が被害者になる事犯もあります。ある時、中学生の街路清掃活動、ブロンズ像の清掃を共にした事がありますが、ある中学生に「そこまで清掃して偉いなあ」と誉めると「そんな事言わんでくれ、笑われるから・・・」思い掛けない言葉に「あ～難しいものだな。」と考えこんだ事を思い出します。これからの少年警察ボランティア活動では、教育経験者、スポーツ指導経験者など少年達と長い時間過ごした経験者が、少年警察ボランティア活動に多く参加して戴く事でしょうか。「悪い道に進ませない。」ボランティアの皆さんが、活動目標を共

有する事も大事でしょうか。

- ・ 1 街頭補導活動（警察と連携） 2 居場所作り（継続した場所の確保） 3 他ボランティア団体とのネットワーク作り ※補導職員（継続した配置）は必須（不可欠である）
- 4 中学校を卒業する生徒たちの進学・学習支援・就労に協力 ※現在、居場所つくりで携っている少年たちのほとんどが中学生である。
- ・ もっと地域や学校とも関係づくりを深くすべきと考えます。なにかのイベントなどの際しか動かないようなボランティアではいけないと思います。
- ・ 非行や問題行動の背景として、社会全体のライフスタイルが個人や自分事を優先するようになったことや、子どもが集団で遊ぶことも少なくなり、年上の子と遊ばなくなった、社会性やコミュニケーション能力が育つ機会が減ってきている事があると思います。よって、地域において大人や異年齢の方々と交流する事がとても大切だと思います。また、日常のボランティア活動を進めていく上で重要な事は、昔から言われている事です。上から目線ではなく、いつも見守ってくれている地域のおじさん、おばさんとして常々言葉をかけて、少年達から「いつも自分の事を考えてくれる人、心配してくれる人」と感じてもらえる存在でありたいと思います。地域でのスポーツ活動、防災の集い、居場所づくり活動等を通して、子どもの大人への信頼感を高めたり、地域との絆づくりをすることが大事だと思います。
- ・ 「見張る」ではなく「見守る」を心がける。地域の宝である子供たちのために、出来る時に、出来るだけ、楽しんで活動する。
- ・ 愛知県の知多半島には江戸時代より続く弘法大師の八十八ヶ所の霊場が存在します。創立以来、多くの方が巡礼をされるようになりました。少年サポートセンターでは、サポートをしている少年たちに「歩いて周る知多四国巡礼」(知多四国八十八ヶ所+10ヶ所、全行程約 150km) 参加者は歩いて巡礼すること、少年補導委員は巡礼者の応援をお願いしますと呼びかけ、昨年の 6 月より始まりました。合言葉は「己の限界に挑め」、最終日は令和 5 年 7 月 16 日、13 ヶ月 15 回に渡り無事巡礼することができました。地元の印刷会社のご厚意により御朱印帳を寄贈していただき、御朱印を収集することで継続的な参加を促すことができました。参加少年は延べ 95 人、参加者は延べ 409 人と充実した結果を残すことができました。初回の参加には抵抗を感じる少年もいましたが、その後継続して参加する少年が多くなった要因としては、回を増すごとに顔なじみになることで参加しやすい雰囲気になったこと。同じ年代の少年どうしが気軽に話す中で、道中、悩みなどを相談できる環境が生まれたことによるものだと推察します。私のような年齢の高い補導委員の目から見ると、毎回参加してくれたユースサポーターのみなさんが親身になって少年らとかかわってくれたことが、かけがえのないものだったと実感しております。地元の少年補導委員以外にも巡礼のご当地となった近隣の少年補導委員会の方たちには休憩所での激励や差し入れは、歩き疲れた少年たちや参加者にとっては忘れることのできない癒しと励みになりました。参加した少年からは、この次はいつ？という声も聞かれ、期待されていることに喜びを感じつつ、また大変なことが始まるんだというある意味の覚悟もしています。多くの大人が継続的に少年たちとかかわることによって、参加した少年がよい方向に変わっていく様を目の当たりにすることができた事業と

なりました。最後に、毎回到り下見をしてくださったり、安全なコースを手作りのイラスト地図で用意してくれたり、当日の緊急の対応ができるよう乗用車でサポートしてくれたりと気の付かないところで支えていただいた多くの関係者の方に心より感謝を申し上げ、報告いたします。

- ・管内の少年非行、犯罪等を共通理解し、少年に何が必要だったのか、周りの環境等、地域で支えることができないだろうか。ゲームセンターのパトロールをしますが、平日の17:00～なので少年の姿は少数である。最近のゲームセンターは親子で遊んでいる人が多い。クレーンゲーム等大人の方が必死になって、お金をどれだけ使っているか分からない程である。学校の指導が今はどうなっているのか分からないのですが、親子の楽しみの場となっているようだ。どうかかわっていくのか、分かりません。
- ・ネット世界の中の子ども達に対しての活動
- ・少年達の実体験（本人の手記など）を知ること
- ・地域のボランティア（民生委員児童委員、PTA、保護司、消防団など）との連携強化
・交番との連携強化
- ・街頭補導活動を行う際は、単独行動を行わず統一した活動着と腕章、身分証をかざし啓蒙活動に心がけて出来るだけ声掛けを行うようにする。問題行動を発見し対応する際は、威圧的言動での質問は行わず子供の目線で出来るだけ子供たちから状況を話してもらい状況を判断する。
- ・どの活動でもそうだが、人が足りない。働いている者はいそがしい。定年をむかえた人は、このようなことはしたがない。
- ・誰に対して思いやりを持って接すること。青少年に対して、補導委員内においても助け合いや思いやりや協力して活動すること。
- ・非行・不良行為には、様々あると思いますが、どの様な事業に対しても少年警察ボランティアの皆様が即対応できるように定期的に研修が必要だと思います。また、ここ数年コロナ禍の影響によって警察、少年警察ボランティアの皆様との交流を控えておりましたが、今後は再開して交流を深めていくことも大事だと考えます。
- ・青少年の非行、被害防止につとめる。 ・地域の子供達は地域で育てる。 ・問題行動のある少年の立ち直り支援及び相談・街頭補導等
- ・学校になじめない生徒の地域での居場所をつくること。地域の大人と関わっていくことで、それまで感じるができなかった人のぬくもりや自分自身の自信を見出してほしいと思う。
- ・少年を取り巻く社会環境はインターネットの急速な普及などにより大きく変化しています。私達もこの現状に合った活動を行っていく為にも、研修（スキルアップ）また、学校・PTA・地域と連携し子ども達を守るための啓発活動 子ども達の居場所づくり 知識や技能の向上 関係機関と連携し地域の実態に合った活動を進めていく
- ・以前はボランティア活動といえば地域でのパトロール活動がほとんどでした。今は子供達の遊び方も変わりました。都会と地方の違いはあっても、これからの活動をみなおしていかなければと思っております。
- ・県警に対する十分な予算付け。 ・経済的負担が大きすぎる。なぜ、会費を払ってまで

ボランティアをしなければならないのか。これが、新任を確保するうえで、最も大きな障壁となっている。

- ・少年ボランティアの基本理念にもあるように、地域では以前から「地域の子どもは、地域で育てる」という認識のもと、地域の大人が悪い事をする子どもを叱ったり、モラルやルールを教えたりしていました。現在では、他人の子どもを叱れば「うちの子に勝手なことをするな」とトラブルになったり、話しかければ「不審者」として110番通報されるということもある世の中になっています。コロナ禍という時期を経て「地域の子どもを見守る社会気運の醸成のためには、どのようにしたらいいのかな」考えた時、まずは、この間希薄になったボランティア同士の繋がりを構築し、関係団体（PTA、防犯協会、町内会等）との連携を今まで以上に円滑にすることが、大切なのかなと思われまます。
- ・子どもたちへの長い見守り活動ができたらい、親たちへの支援を含めて
- ・SNS等による犯罪の防止に関する研修 ・薬物乱用、特殊詐欺、闇バイト、その他、青少年が関わらないための研修
- ・SNSに関する知識の習得
- ・ボランティア活動の後継者の育成
- ・ボランティアの多くの方が50歳以上かと思います。私も現在60歳代で、自分の子供も一番下が26歳であります。自分の子供が少年の頃には自分の子供を見れば分かっていたのですが。少年の行動、考え方等も時代によっては大きく違っているはずですが。活動の基本はいつの時代でも変わりませんが、少年は時代によって変わっているはずですが。また、地域によっても変わっているはずですが。そこで、今の、その地域の、少年の動向・考え方等をボランティアに指導していただけたらと考えます。「あー、今の子はそんな考え方をするんだ」「今の子はそういう行動をするんだ」とか、理解出来て、少年補導に役立てることが出来ると思います。
- ・都市部と地方、また過疎の地区など場所によって活動は大きく変わると思う。自分自身を学び成長しながら、一人ではなく力を合わせて活動すること
- ・持続した活動維持と更なる地域社会全体での活動推進、雰囲気づくり（青少年育成市民会議との連携など） ・世代交代、子育て世代とのつながりと引き継ぎ（当事者世代からの関り強化）
- ・私は離島ですので、子供達も少なくなり人口も年々少なくなっています。この様な時だからこそ、いろんな面で警察ボランティアは特に必要な活動だと思っています。子供達も対面で話す事や外での活動もやらない子が多いと思います。友達も作ることが出来ない子も少なくないと思います。私達ボランティア活動もパトロール声掛けなども大変良い活動だと思っていますが、一番大事な事は、まず私達大人が変わればと思っています。地域も変わっていくと思います。不登校の子供達や、自分を主張する事が下手な子も多くなっていると思います。難しい事かもしれませんが、警察ボランティア、学校、家庭、地域が一体となって、コミュニティの協議会などを作って各活動を考えたらと思っています。私の地区では小学校を中心に活動しています。また町作り協議委員会、これは市からの定案でこれを立ち上げて事務局を中心に子供達、地域の方と一っしょに各部に分かれて活動をしています。この活動が私達人口の少ない地域ではボランティア活動には

いちばん合うような気がします

- ・見回りや街頭補導だけでは対処出来ない部分が出て来ている。
- ・積極的に活動に参加しようとする精神が必要と思います
- ・地元、小・中・高校へ年1回程度でも、補導防犯（交通安全等を含む）を関係機関と協力し、講話等の実施を行なってはどうか？各学校との関係がまだ深いとは思えない。
- ・人さがしが大きな課題になっているように思います。ボランティアの高齢化が進み、今後、後継者を見つけ育てていくことが求められます。私は43才で補導委員になりましたが、若い方々が積極的に関わってくださることを期待します。補導委員の役割の大切さを伝えたいと思います。
- ・街頭補導の時間帯が難しい。昔とは違い、いつ、どこに誰といるのかがわからない。
- ・今後は今迄とはまったく違った活動が必要になってくるのかもしれない（例 SNS等の見守り等）
- ・近年、共働きの人が増し、ボランティアとして後をまかせられる人が少なくなった。
- ・組織の活性化と人材確保
- ・私の場合、保護司としての活動が多いので、その延長、又はその関連的な業務が多い。昔（父が少年補導員であった）は、補導員同士の連絡がもっと密であった。警察との連携も昔ほど密ではない。小学生の登下校の見守りなど別のボランティアがよく活動している。それらのボランティアと連携するのが良いと感じる。
- ・最近（10年以内）の街頭補導では、少年達は夜間の街中ではほとんど見当らず、従来の補導活動に意味があるのか疑問を感じる。近ごろの初発犯罪のきっかけは、SNSやネットゲームなど、スマホなどインターネットによる接触例が多く、その防止のためには学校内外でのSNSなどの教育に重点を置いた方が良いのでは…と感じる。
- ・他団体（自治会・小中PTAなど）との連携。情報の共有、行事開催の連絡などを通してでない地域の実情がわかりづらいため。
- ・インターネットやスマホによって子供達の状況は一変してしまいました。実際いじめや犯罪もスマホの中で行なわれ私達には直接わからないのが実態です。それでも街頭補導では、ゲームセンターで16才未満の出入りチェックやカラオケ店での不適切異性行為などで声をかけ注意する事も多くあります。やはりそのような場所を見守って声をかける大人は必要だと思います。また幼児や小学校低学年への防犯教室は楽しみながら規範意識を育てるよい活動だと思います。インターネットやスマホの関係は私達ボランティア（高齢者がほとんど）ではなく、学生ボランティアや警察、専門の方にお問い合わせの方が良いと思います。
- ・街頭に欠かせない、昼夜問わず少年達に声がけを行なう。地域住民の安全、安心の見回り活動。ボランティア会員と警察官とのコミュニケーション作り
- ・指導委員各人の活動に対する意識の向上。（農業体験…等への参加） ・委員仲間の連帯感の向上。 ・所轄生活安全課との不慣れ（4～9年で異動があり慣れる前に移動が来る）
- ・子育て世代の若い人の参加が必要だと思う。高齢になって来ているので、今の若者の考え方、行動、SNSでの事を理解出来る様、補導員への研修等が大切ではないか。
- ・青少年の健全育成（犯罪予防・防止）の為、我々住民には所轄は関係ないと思っている。

大道一元と受け止め、住民誰もが日常生活の中に於いて、常に子供達に対して見守りが必要であり理想だと思う

- ・「地域の子供は地域で育てる」今の子供たちを知るための「声かけ運動、あいさつ」が一番だと思います。登校時はPTA他が旗当番で見守ってくれています。下校時は共働きで親のいない現在、私たち補導員が危険な交差点、不審者情報等の地点等での見守り、あいさつ…基本的な事ですが子供達との親頼関係のためにも必要だと思います。私自身は学校へ行く機会もあり、良い関係を築けてきましたが全ての少年補導員が子供を知っているか？学校との良い関係を築くためにも
- ・若い世代が参加できる環境を整えると良いと思う。
- ・時代の流れ、環境の変化に伴い、少年警察ボランティアに対して、関係機関が必要とする重点活動について計画・行動の指導を願えばボランティアとして見えない非行等の防止もできると考えます。
- ・1 現在「青色回転灯」車での街頭補導が中心ですが、極力歩いて街頭補導をしたい。
2 声かけのスキルを高めたい。普通の少年達にも。
- ・少年警察ボランティア活動の際に、非行・不良行為を行っている少年への声かけの方法や態度については冊子や警察官の方からの説明があり、内容は理解したのですが実際に実践するとどうすれば良いのか、や、どこまで自分が行動してどこから警察官の方へお任せすれば良いのかに困った経験があります。そのため、不安がある人に対しては研修を受ける機会を設けると自信をもって街頭補導活動に取り組めると 생각합니다。大人の自信のなさは少年にすぐ伝わると思うので、自信をもってボランティア活動に取り組める体制づくりが必要だと思います。
- ・色々ある中で、重点として少年の非行の芽を生まないために、小学生を対象にした青少年健全育成活動に重点をおきたい。規範意識向上のために、カルタ遊びを通じて、社会のルールや決まり事を学び、守り育てる。を目的とした健やかカルタ会（防犯カルタ）は大変有効だと思っています。署員、安全・安心町づくりアドバイザーの力を借り、地域の子供は地域で守り育てる。の共通認識を持って、今後は地域の自治会、子供育成会と連携し学童保育所に限らず開催を重ね、広めていくことが大事だと思っています。それも一過性に終らず、継続して！！
- ・本来であればこういう組織は無い方が望ましいですが、過去には大へん重要な団体だったと思います。1 児童・生徒に対して高圧的な発言でなく、友だち的な言葉で話し掛ける。
2 自らの生活・行動を律すること。 3 地域への恩返し。 4 少年警察ボランティア活動は活発にならないことが大切。社会全体で見守る状況が望ましい。
- ・当ボランティアの存在を広く住民に知っていただくこと。 ・警察ボランティアとしての認識を深め、地域の少年育成に関する諸団体と繋がること。
- ・小・中学校の生徒の情報は学校側から情報の提供があり、少年警察ボランティアの活動に生かす事が出来ますが、高校生、有職少年等の情報は警察署員とスクールサポーターの方から情報を頂くのですが、中々身近な感じでなく、どの様に活動に生かしたらいいのかと思っています。これからは、警察・学校と密に連携をとって来たのですか、それに地域の方からの情報を取り入れて活動が出来ればと思っています。

- ・インターネットによる非行防止、そのため子どもだけでなく親にもインターネットの有効なところと危険なところを周知する ・ドラッグの危険性を広く知らせる ・闇バイトの危険さ ・暴力団に加入する事に対する防止活動 ・不登校、問題を抱える子どもに対するフォロー（農業体験の充実、漁業や林業、建築造園、陶芸等、いろいろな事を体験させ充実感を味わってほしい）
- ・街頭補導も大切な事なので平行して学校訪問をしていて、学校行事などに参加をして、生徒教師と接する機会を増して、協助員として何が出来るかを考えてみたい。そのためには、学校行事の連絡を学校側より案内をもらう事と参加への了解を学校に取り付ける必要があるので、教育員会へ警察よりその主旨を伝えて頂きたい。3年間コロナ禍で、色々な前歴が失われているため！
- ・地域での見守り活動は、当然の事ながら急速に発展している子供達を取り巻くデジタル化による環境の変化に対応出来る為の、研修の機会が増えればいいと思います。
- ・地域パトロールを行うことで少年たちが犯罪に巻き込まれない環境を作っていくことは大事なことだと思う。併せて、少年たちに声かけすることで関係を築き、何かあれば相談にのれるようなボランティア活動になればと思います。少年の非行や近年増えている不登校・ひきこもりにおいては、家庭環境によるものも多いように感じます。教育機関や行政でも相談窓口や対応に取り組んでいますが、それぞれが連携できれば、より効果的な対策につながるのではと考えます。本市においては、少年警察ボランティアの会長は行政機関に他ボランティア団体とひきこもりや問題行動のある少年への関わりについて連携し、定期的な協議を行っていますが、少年警察ボランティア全体で参加共有する機会があれば、時代と共に変化する少年たちが置かれている環境をより理解することにつながると思います。一方で少年警察ボランティアの補導員も仕事を抱えている方が多い為、気持ちはあっても時間的余裕がない方もいます。ボランティアに理解を示し活動を担う人を探すにも苦勞することもあります。ボランティアに携わり社会的な貢献を実感できることも活動を続ける一つのモチベーションになるかと考えることから、活動の様子を積極的に地元マスコミに取材してもらい、新聞記事や行政の広報誌で紹介して頂くことで家族や勤める会社からの理解につながると思います。※余談ですが、このような調査においては手書きだけでなく、パソコンやスマホで記入を選択できるとありがたいです。
- ・常によその子も我が子同様に愛情をもって接すること 委嘱を受けているので、使命感を持って行動すること 補導、指導が全てではなく、非行の抑止や地域の啓発活動として継続することが大事
- ・他機関との交流（町内会、学校など）
情報共有と連携が大切だと思います。また、研修や交流の機会を増やしていただきたいです。
- ・学生の補導員を増やすこと
- ・それぞれの地域ごとの関連団体との連携を進めて行く。例えば、小中学校のPTAとの連携、地元の青少年健全育成会の連携などとの連絡体制を強め、活動の幅を広げていくことが求められているのではと感じます。加えて「少年補導員」ということが、地域では

知られていない現状があり、活動内容を含め、知名度を上げる努力が必要ではないかと感じています。

- ・活動中、対象少年等から法律や条例等の質問を受けた際に、自信をもって回答出来る様、年1~2回の研修を受けたい。
- ・子ども会の時から顔見知りの子が登校拒否になったり、非行グループに入りそうな時、私は声かけをしています。きっと周りが自分を見守ってくれているのが解かるという事で子ども達も私達に心を開いてくれるのではないかと？
- ・活動予算の少なさが他ボランティアよりも感じる。当ボランティア組織では、年間の報奨金を全額回収し活動予算としている。通常、茶菓代等の費用は掛かるものなので、多くは必要ないが、そういった予算は確保して頂きたい。一方、支給される報奨金は補導活動時の交通費とすれば十分と感じている。また昨今、街頭補導の意義は「活動を見せる」「声掛け」等以外のやりがいを感じにくく、何か別の形の意義を感じられる様な活動があれば良いと感じる。
- ・近年少子化にともない、あまり子どもを見かけない。スマートフォン、インターネットの普及にともない、水面下での子どもの危険性を感じる。私はあまりくわしくないの、そのあたりのことを研修などで知りたい。今は自己が大切で、人への思いやりだとか、大きなお世話だとか声をかけるにもかけづらい。今、私達はどのように接するのがいいのでしょうか？話にくいついて来てくれる子ども達はまだ、人恋しくて何かの手助けになるように思う。情報がすぐ手に入り、経験が少なく、これからの子ども、子どもの親世代もやはり、子どもより自分が一番の親もおり、色々考えると心配がつのる。子育てのおわった私達にも今の現状をもっと発信してほしい。学校に出入していても、学校も（校長によりけり）情報公開してもらえず、今がわからないのも現実です。地域により色々ではあるでしょうが、私達もお手伝するには、今を教えてほしいです。この活動が1人でも多くの子ども達、社会の手助けになることを願っています。
- ・私たちの大切な少年の非行防止、青少年の健全育成のために「地域の縁の下の力もち」となれる活動であること
・登校・下校の生徒さん方と顔見知りになり、信頼関係を築くことができ、時には個人的な話を聞いてやれる地域のおじさん、おばさんの立場。そんな自然的な見守り活動。
・青少年（少し道にそれてしまった少年たち）の体験支援活動で、その少年たちの生々とした農作業や食事の用意（台所での昼食の準備など）時に自分の家庭の話、おばあちゃんのお料理の話など、嬉しそうに楽しそうに語ってくれた事が思い出されてきます。こうした実践活動の成果も多大ではないかと感じている。
・少年の方々に近い年令の大学生ボランティア（少年警察学生）のお兄さん、お姉さんの効果で、少年たちの気持ちに寄り添っての活動は、私たちと違って少年たちの立ち直りには不可欠と存じます
・家庭の主婦をして子育てをしながら少年警察ボランティアに携さわせて頂き、机上では学ぶことができない貴重な経験をさせて頂いてきました。少年警察ボランティアの方々の活動は社会へでてからも大変意義のあるものと存じます。そして少年警察ボランティアとして青少年の健全育成に結びついて活動してほしいと願うところです。横のつながりとして、関係機関（学校、福祉協議会、企業等）の協力の必要性、SNS等で大事な必要条件であるのではないかと存じます。

- ・人材育成と人材確保、補導員活動の社会的広報
- ・小、中、高生徒、児童達にインターネット犯罪の最新の手口影響を詳しく知らせる必要があるのではないか。同じく薬物についての事例と出前講座的な勉強会を学校と相談しながら行なってはどうか。
- ・地域ごとに活動の内容が異なっていると思います。地域の枠を超えた活動ができるということかなと思います
- ・時代に合った接し方
- ・少年指導委員の活動は、立入り等、警察官と同行にて周到な準備の上で、より実質的で効果のある活動が進められている。対して少年補導委員の活動は、直接少年と接したり会話する機会は一度も無く、少年たちと交わって指導や相談をすることは皆無である。（この10年余り）。実際の活動は委員会メンバー同志の交流会が続けられており、年に数回の街頭でのPR活動（粗品配り）をするだけで”少年補導”の組織としての具体的活動は一切行なわれていない。警察署の方々のご負担が心苦しく、また税金のムダ遣いとも感じる。
- ・現状を正しく理解すること
- ・子育て世帯（親）を含めた子どもたちへの教育（社会貢献）の実施 自らの経験を伝える事で、自分も成長出来ると思う。
- ・当署においては、警察と行政のコミュニケーションが不足している為、警察署の要請により活動する機会が与えられ、年々、活動機会が減少しています。よってボランティア会員は「やりがい」を感じられません。又、当署は生活安全課の元に活動をしておりますが、もう少し、地域課との連携も必要かと考えます。
- ・あまり力まずに、地域の青少年と交流しながら活動を続けていければ良いと思っています。
気軽に参加できる環境を作り、若手に広く参加加入をしてもらう。経済的に厳しい時であり、ボランティアに感心してもらえない時だからこそ、重くない活動で、一般人に知ってもらう事が大切だと思う。
- ・街頭補導やふれあい活動等については、旧態依然として警察主導で実施しているのが現状です。少年警察ボランティアには警察職員の様な権限がなく、受傷事故防止等の観点から自主的かつ自立的な活動が消極的になりがちになるため、警察職員に頼らざるを得ないのは必然の帰結です。少年に対する声かけ要領や少年との係わり方と言った実践的能力を備え、ある程度自主的に活動できるリーダー的な人材育成が必要ではないかと思います。当然、研修等のあり方も実践指向にシフトする必要があると思います。
- ・活動の制度等を社会に広め、理解してもらえることが大事 そのためには、自身が経験を通じて奉仕する事も必要と考える。実際、活動自体の実態があるかは地域差があり、ならば地域を超えての活動も必要かと思われる
- ・現在なり手不足で困っているので、できるだけ多くの人に少年補導員のことを理解してもらい少年補導員になってほしい。そのためにも積極的なPR活動が必要である。
 - ・女性の方が減ってきているので若い女性の方の加入が必要である。
- ・地域によって活動の仕方は違うとは思いますが、少年等への理解を深め、防犯に務めるよう

にしたいと思う。各機関と連携して、居場所のない少年や課題をかかえている少年等の把握をしながら、改善へ向けて努力するべきかと思う。

- ・ 仲間意識を高める事
- ・ 支部同士の交流（お願いしてはいますがなかなか出来ていない） ・ 同じく地区ごと、県単位での交流及び情報交換などがあれば、子供達への接し方も良くなるのではと思います。
- ・ 地域におけるリアルタイムの情報の共有
- ・ 子供より親への教育 普段から子供に接する機会を増やす
- ・ 会員の拡大が必要だと思われます。又、私を含め、10年、20年後の事を考えると、人材が不足し、青少年を見守る事がむずかしくなる様です。50・60代の方が多く協力して頂たく事もあるのですが、30・40代の若い人材にも声を掛けて、活力のある会員活動をしていく事が必要かと思っています。
- ・ 今以上に「地域の少年は地域で育てる」意識を持って活動することが必要であると思います。
- ・ 地域によってはいわゆる「たまり場」がなく、子ども達を外で見かけることが少ない。 ・ 時間帯によっても、我々が仕事をしている時間帯に、例えば公園などにたむろするケースもあり、情報をいただいてもすぐに対応できない ・ こうした課題もありますが、ポジティブに「我々の活動が目にとまることによる非行抑止」につながればと考えています。
- ・ 若年者とのコミュニケーション技術を修得したいと思いますが、会話の成立が現在の少年・少女は難しいとつくづく感じています。孫との会話に務めて、その延長線上と考えたりしますが、スマホが全てと思い込んでいる少年・少女が多い現状となっており、理解力の向上が追いつかないことから、このことへ対応した研修の開催を（随時）願っています。
- ・ 警察署・地域と連携して見守っていく、危険な場所などの確認、薬物などの情報の共有を行う。
- ・ 地域での活動するにあたり、少年補導員が信頼される立場にもっと得られるように、もっと警察（地域交番）との連携が出来るようになればいいと思います。
- ・ 本署での課及び係との交流はあるが、地元地域で交番職員との面識がナイので、年に1度か2度、会合を持ちたい。
- ・ 人材の確保 適切な人を探すことが困難である ・ 「少年を取り巻く環境」の知識 子ども達の現状の情報収集
- ・ 現代の流れなのか外遊びする少年が減少しており、家庭内でのゲーム、不良行為が横行している。ゲームでの課金、依存症による暴力等、見えないところでの行為が増加しているもので、少年ボランティア活動の行動がせまくなっている。
- ・ 10～20年前とは、補導内容、補導場所、子どもたちの様子も随分変化している。私たちも現状にあった補導活動を実施していかなければと思っています。
- ・ 素人集団では指導に躊躇する人が多いと思います。よって警察官と一緒に行動する様にする事が望ましいです。又複数で活動する事。
- ・ 1.地域、自治会等の連携を深め、情報を共有化することが大切ではないかと思っています 2.

学校の行事等に積極的に参加しお互いを知り合う事が大事なことだと思います。

- ・働き方改革等あり、若い人材が不足していると思います。若い方の考え方等参考にして活動ができると、もっと活動の幅が広がると思います。時代に順応した取りくみができるといいなと感じます。街頭補導でも最近少年たちを見かけることが少なくなっています。ゲーム、スマホ等で家にいることが多くなっていると思います。
- ・少年ボランティアがどういう活動なのか分らないで入会している方がいるように感じる。昭和と平成、令和と時代が変化してきているので人の考え方もさまざま。唯、ボランティアの基本は忘れてほしくないと感じることがある。自分の為であり社会、人の為になる心がまえでお願いしたいと思います。仲間が増える事を希望しています。年々減ってきている事が残念に思います。
- ・ボランティア活動に対して金銭的負担が生じているのが大変である。ボランティア活動なのに、なぜお金を負担しなければならないのか、今後活動していく中で新規の加入勧誘をする中で問題と成ってしまう。
- ・明るく笑顔で接すること
- ・少年補導員それぞれの考え方が異なる中で、やりがい、意欲を持って活動してもらえるか、意見を聞きながら一つにまとめるのが責任者の役割と思っています。
- ・若手の育成 ・ SNS による犯罪への巻き込まれ防止（啓発活動） ・ 危険ドラッグから子供達を守ること
- ・青少年との交流が少ない為、青少年との交流の場を多く持つ。 ・ 子供の参加するボランティア活動の情報を集め参加する。 ・ 地域の情報集め、交流、寄り添う。
共に考える。悩みは成長の一步だと思えるように、少年達との信頼関係を築けるよう活動していきたい。「護る心と護らぬ魂」相手の性分が悪くとも、必ず良い面があるので、悪い事は悪いが、少しでも良い根を見つけられれば少年達を褒められる心の広さを持ち続けられることが大事ではないかと思えます。
- ・関係団体等との連携強化と行政との連携
- ・平成 3~4 年頃の少年非行と現在では内容、形態が異なる。情報の共有が大切と思うが個人情報保護法で共有が困難。共有することが情報漏洩となっては把握できない。少年補導員として青少年の非行概況を把握して夜間巡視して見守り活動と青少年育成の地域住民へのアピール等に努めている。
- ・世代交代を進める為の地域との連携充実 ・ 次世代との対話機会づくり ・ 学校の教職員との対話機会づくり ・ 地域における、少年警察ボランティア活動の広報
- ・少年補導員の自主的活動はほぼ0。署員の勤務時間に合わせ行なっている感がある。活動もこれまでどおりの活動をこれまでどおりただ淡々と…。子供達を見ている親、教員などとも接する必要があるのではと考えます。
- ・コロナ禍で補導回数も減り、立直り支援への参加も減りました。非行防止教室は、保育園幼稚園、小学校からの依頼がまったくなくなりました。今年度は再スタートと思っていますが、なかなか以前のような活動に戻れずにいます。警察署と相談しながら前向きに活動を進めていきたいと思っています。少年たちの行動や活動場所が変ってきていますが、積極的に声かけをして、地域の子どもは地域で育てていきたいと思っています。

また、保護者への声を届けたいと思います。少年たちの変化（進化）に遅れをとらないよう私もスキルアップを怠らないように、常に勉強していこうと思います。

- ・他署補導員との交流会や情報提供をしていただきたい。
- ・街頭補導も必要だと思うが、少子高齢化にともない人が少なくなっているし、不良少年の数も減っているように思う。学校訪問に力を入れて、不登校や子供達の話し相手になれるよう努力した方が良い。私の会は、新しい人を4人入れましたが全てPTA会長です。学校と子供達と我々のかけ橋になってくれると期待しております。
- ・大人が子供との接し方が悪いのでは、と考える。子供の居場所や大人としての話し方やもっと教えられることがあるのでは、と考えます
- ・精神的な弱さが目立ち、情緒不安定な少年が多く見受けられる。カウンセリングを必要とする少年の為に、専門知識を持った補導員が必要ではないか？
- ・若い人にたくさん入ってくれることです
- ・地域の大人が、イベントなどで地域の子供たちに声かけするなど、子供の成長を見守っていくことが必要だと思います。
- ・若手少年補導員の育成について
- ・青少年の薬物問題が深刻化しているので、少年補導員として何が出来るのか教えて欲しい。

楽しく進んでボランティア活動が出来る雰囲気や環境づくりの構築。

- ・市町村の少年健全育成センターの職員や警察職員の方々とご一緒に、街頭補導活動を行っていますが、少年達に対する声掛けそのものが少なく、パトロールのみに終始してしまうことが多い。全国的に少年の街頭補導件数が激減していると思いますが、一番の要因は、街頭補導活動時における少年達に対する声掛けが少なくなっていることだと思います。もっと積極的な声掛け活動が必要だと思います。
- ・行政にも少年の健全育成の団体があるので、もう少し合同の活動を増やしていく必要があるのでは？活動が一般の方にあまり知られていないのでは？
- ・ボランティアの増員と研修等などの教育が必要
- ・メンバー「横のつながり」が必要かな？
- ・特定少年に対する活動も必要ですが、全ての子ども達に対する非行防止・規範意識の向上になる啓発活動が、低学年から実施が急務と思われます。
- ・少年ボランティア活動を社会的にもっと広めたい。一般の方々は理解しているのか？理解している人は少ないので、各活動を通じて広めたい！！活動が少ないと思う。田舎なので若者が集まる（たむろする）場所が少なく、活動がはがゆい思い。近隣の小中学生は問題行動を起こす子供たちが少なく（それは良い事だと思う）
- ・学校との連携の強化、子ども達への声かけ・交流。
- ・少年警察補導員の存在を自分が任命されるまで知らなかった。補導活動、巡視をすると、不審者のような目でジロジロ見られる。もっと存在意義とか、活動PRとかして、社会に知ってもらいたいと思う。今、増加している不登校の子ども達とかとのふれあいもしてみたい。又、その親御さん達とも話してみたい
- ・市町村合併により自治意識が少なくなっており、現会員の後継者をどのように確保して

いったらよいのか、特に定年延長に伴い退職された後に誘っても断られることを真剣に考えなければなりません。

- ・もっと若いボランティアのメンバーも増やした方が良いと思います。
- ・他の団体との交流、情報交換の機会
- ・警察関係者との意志疎通 ・学校関係者、地域の方との意思疎通
- ・過去は、外から見える非行なりいたずらが、今日では表面は静かに見えているが、何をしているのかわからない。研修を通じて、今の問題点や、子供たちからの見方や、又反対に自分たちがどのように接したら良いか、行動による非行性向がわかれば良いと思う。
- ・世代間を超えた地域住民同士のつながり 地域で子どもを見守り、育てる意識
- ・職場での定年年齢の引き上げがなされている状況下で、少年警察ボランティア活動との両立が課題と感じている。平日の日中に実施される社会参加活動等において参加補導員の確保（ノルマ）に苦勞している。また、会議等の実施においては、オンライン形式での実施も検討して頂きたい。
- ・私が少年警察ボランティア協会に就任した頃と現在の子供の状況は一変して、子供も少なくなったりして、街頭補導しても子供と出合わない事もあります。またあの頃は携帯電話もなく今の様に子供がスマホに夢中になる事もありませんでした。時代の変化に準じて活動のあり様も変って行かなければいけないと思うのですが、今はあまりにも変化が早過ぎてついていけません。正直サイバー犯罪は頭でついていけません。この様な中若い人の参加と現在活動中の私たちが今の状況を理解する事だと思います。私の中ではどんなに技術が進歩して新しい物が現れたとしても、最後は人と人との声かけ相手を知る事だと思います
- ・現在はネット上でのつながりが多くなって実際の人とのつながりが薄くなっているのも、少年たちと会って話す・一緒に活動するなど、交流の場が必要と考えます。

⑧V ご意見

- ・少年補導員として、より多く青色防犯パトロールを実行したい。
- ・このアンケートに対して、回答のべ切り期間が短すぎて、ゆっくり考える時間がなかった。9月8日に届いて、11日までに投函するようになっている。
- ・コロナ禍で思うように活動が出来ませんでした。①私達の連絡会では立ち直り支援活動の農業体験を続けています。ある年の対象少年が農業高校の生徒で、先生（指導者的立場）になって警察内で剣道の練習をしている子供達にさつまいもの植え方等々丁寧に教えてくれました。ボランティアも皆、生徒でした。②環境浄化活動では、公道横のコンクリート壁の落書きをサンドペーパーで一生懸命消してくれました。（別の団体）対象少年はもちろんですが、一般の子供達も参加出来る活動①②は私の経験した成功例です。
- ・30年近く補導員をしているが、少年たちの相談（大人からも少年たちからも）は1件もない。相談がないのは良いことだが…。
- ・動いたらライトが前後に付く自転車（無灯火の自転車対策） ヘルメットが収納又取付けできる自転車（ヘルメットの置き場所）

- ・全少協に対して、物言う県少協でありたい。なぜ県少協は任意団体なのか？ 全少協へ会費は一人当たりを500円に統一できないのか？
- ・難しいです。努力しても報われず、コツコツと努力して結果を出していかねば…。
- ・少年補導員が青少年の健全育成を目指すには、彼らの役に立つ啓蒙知識の訴求と街頭補導等である。その第一歩は意志の疎通、コミュニケーションを図れる状況設定がなされていることが肝要である。しかしながら、都会の繁華街ならいざ知らず、街頭パトロール時も青少年を見かけることが極めて少ないのが近年の我々周辺の状況である。また、教育機関を通しての我々の活動はコロナ禍の影響であると思っているが、その機会は減少している。前者に関しては、現在の社会情勢（塾等や室内での遊びが多くを占める現状）が、その方向に向かっているものであり、致し方のないことだと思っている。後者については、我々をはじめ関係者が我々の活動内容を機会あるごとに教育機関の先生方に知らしめる活動を日頃から行って行く必要を感じている今日この頃である。
- ・少年補導員が一生懸命、年間活動や協会員の出勤回数なども考慮に入れて、頑張っております。出来得る限りの協力を惜しまずに協力して参りたいと考えております。
- ・私の少年警察ボランティア活動への想いは子供達と一緒に遊び行動すること。私の趣味は大道芸です。（バルーンアーティスト・チンドン屋）昔から病院・老人ホーム・保育所などへのボランティア活動を行っていますが、そのような場所へ、傷害事件（教師への）おこした少年グループ（保育所へボランティア活動）や引きこもりの小学生（デイサービス老人ホーム）に数日間バルーン作りの練習をして訪問しています。最近しばらくはコロナ禍もありこのような活動はしていませんが、いつの日か子供達に地元で開催されるチンドンコンクールに出場させることが夢です。
- ・子どもに関わるいろんな事が社会現象になっている。特に感じるのは、子どもの貧困、子ども食堂、戦後苦勞して来た私には、現代社会の中で考えられない。経済的に貧困の方もいらっしゃるのかもしれませんが、子どもには台所に立つお母さん又はお父さんのあたたかいごはんを作る姿を見せてやってほしいし、大変な中でも子どもが成長する中で家族の団らんの時間をつくってやってほしい。家族の中の会話、家族の絆、今だからこそ必要ではないか？と思います。学童保育（小学生3年生迄）の児童を見ていると、支援員の膝に背中にもたれかかったり抱っこをせがんだりする児童が多くいます。親は仕事が忙しくてなかなか子どもにかかわってやれないし、親も疲れているのかもしれませんが、どんな状況の中でも、子どもには短い時間でもいいから、かかわってやってほしいし、食事もしっかりと食べさせてやってほしい。学校の先生の話では、朝ごはんも作ってもらえず、そのまま登校する児童もいると聞く。いろんな状況の中で、子どもに関わることでだけでも、なんかおかしいと思われませんか。貧困への支援も結構ですが、まず親が（大人が、社会が）子どもにしてやること、人として基本的なことが欠けている現代の社会に不安を感じます。（家庭・地域・社会がしっかりしていたら青少年犯罪もなくなるのではないのでしょうか）（乱筆乱文、失礼しました。）
- ・少年補導員も高齢化が進み、世代交代が上手く行ってない現状にあります。現職の方は仕事優先、ボランティア精神だけでは「なり手」が確保できない状況にあります。後継者育成、後任者確保が喫緊の課題と考えます。

- ・少年ボランティアに関わっている人たちが地域にたくさんいることを、地域の交番だより等に掲載して少年ボランティアの活動の広報をもっと増やしてほしい。
- ・非行に走る子ども達に接すると感じるのが、結局は家庭環境、特に保護者の問題と考えます。しかし、どこまで立ち入って良いのか苦慮します。まずは子ども達の話し相手になることかな。 ・最近の児童虐待等のマスコミ報道等を見ると「親が子どもを私物化」している様に感じる。人権意識の欠如かな…
- ・なかなか手確保が難しくなっている。70才定年ということもあるのでしょうか？定年制の見直しも必要になってくると考えます。
- ・少年補導に対してもう少しきびしい指導をしてもらいたい。
- ・あらゆる場面でのマナーの低下が目立っています。何らかの形で、少年警察ボランティア活動に取りこむことが出来ないのでしょうか…？
- ・新型コロナの影響もあり、最近、補導員等ボランティアの人数が減少していることが心配です。活発な活動を目指したいと思いますが、あまり負担感なく、多くの人がかかわり少年達に目を向ける人数が少しでも増えていく事が、地域の安心安全につながるのではないかと思っています。
- ・講習会をオンラインで、其々の都合良い時間に聴講出来る様な形で開いて欲しい。任期2年目の再任時、毎回後継者探しに苦労する。
- ・少年警察ボランティアをしていて、保護司、民生委員間等で情報を共有することが出来るのは地域の実情を知る機会にもなり善かったと思う ※それぞれを兼務しているボランティアが多くいる 我々の地区ボランティア協議会は恵まれていると感じている。 ・私の住んでいる地域では青少年育成市民会議を中心に、行政、学校、地域の有志、各種ボランティア団体（児童館の母親クラブ、子育て支援事業所、民生委員、保護司）等が協力し、少年たちの居場所づくりが実施されている。まだ立ち上げたばかりの事業ですが、目に見える活動をしてきた結果、これに賛同する企業も増えてきている（人材育成）様です。私たち少年警察ボランティアも情報をキャッチ、地域貢献活動にいかしていきたいと思います（考えている） ※まずは行動してみることでしょうか。
- ・なぜ、ボランティアをさせてるのに保険料を自己負担させるのかおかしいと思います。名前ばかりの補導員も多いが、自分たちはけっこう活発に活動しているつもりである。
- ・私は育成部に所属し、少年たちに、自然の中でドラゴンカヌーに乗ったり、魚つりをしたり、地引き網をしたり、魚つかみ取りをしたり、いろいろな体験をするような企画を考え、親子で参加してもらっています。コロナ禍で4年ぶりに活動が再開し、家族で参加していただき、とても楽しい時間を過ごしました。これからも年に1度ですが、親子で参加できる楽しい企画をし、楽しい体験をしてもらいたいと思います。
- ・全少協の考えるボランティア活動の範囲（種数）が少ないように思います。少年補導員は小学校・中学校での活動（万引き防止などの防犯教室・インターネットの使い方のサイバー教室）を推進しています。学校の中に入って、先生と保護者、地域と一緒に子ども達を見守り活動です。固定化された活動ではなく、多岐に渡っているのが現状だと思います。
- ・昨今、少年の問題行動は街頭など見える所での発生は少ない傾向にあり、補導員のパト

ルールもインターネット上の SNS などの監視も含めて行う必要があると思います。そのため、私ども協議会では補導員の定期活動にサイバーパトロールも含め街頭とサイバーの 2 班体制で行う事ができないか検討中です。

- ・後継者不足
- ・少年警察ボランティアのなり手不足は深刻な問題と思います。改善策がありましたら、ご教示頂けると幸いです。
- ・今までの街頭活動や見回りでは、少年たちと話す機会がなかった。学校等と連携して、社会に出ていけるような支援活動を考えていけたらいいと思う。不登校になる子どもたちが増えていることに心が痛む。必ずしも学校に行かなくてもよいと思うが、友だちや大人と関わりがなくなってしまうことは、本人にとっては不利益ではないのか、と考えてしまう。
- ・コロナ禍ここ 3 年思うような活動が出来ませんでした。3 年前の活動は出来なくても、学校・地域の方にもっと私達の活動を知っていただける様にしたいです。
- ・ボランティア活動に協力してくださる方が少ない。少ないというよりほとんどいない。長年活動続けてきた方が高齢となり活動をやめたいと思ってもひきついでくださる方が地域にいない。いろいろなボランティア活動をしている人達が今言葉にしていることは、やめたいと思ってもひきうけてくださる方がいない、年をとってもいつまでもできない、いつまですればいいのですか？健康なら、やる気があれば 80 才だろうと 85 才だろうと何才になっても続けてほしいと行政の方はいわれます。定年という制度はなくなったのですか？どのボランティア活動においても、継続することは大切です。継続するためにも若い人にひきつぐ活動しながら後継者を育てることが大切です。その意味でも定年制は必要だと思っています。定年年齢をはっきり言って、定年後 1 期は続けてもその後は若い人にひきついでいく、そういう考え方も必要です。介護問題のように、ボランティア活動も老老介護のように高齢者ばかりでは、活動が停滞してしまいます。
- ・私の地域では警察官や少年センターの方々が中心となり活動しているので、補導対照者とは深くかかわらないので、よく解っていない
- ・地域への認知度が低いと思う（協助員の）自分たちでアピールするのも限度があり、地域からも「ふーん」というくらいの返答しかない。誇りをもって活動しているつもりなのに、少し淋しい
- ・各警察署において活動を支えて頂いている警察職員（特に女性）が減少し、活動が停滞ぎみになっている。
- ・月に 1 回青パトで巡回しているが、田舎であり、少年は見かけない。補導員としてこれでいいのか、悩んでいる人が大勢います。警察本部長委嘱として、少年補導員に何を期待されているのかわからない。子供がいなくても、巡回の意味があるのかもしれないが、時代が変化し、これからも子供が減る現状で少年補導員はどうあるべきか助言いただきたい。
- ・この活動に関わる事によって、少しですが少年の行動が見えてくるように思えます。私たちが巡視をする事により、少しでも啓発になれば良いと思っています。
- ・各地区のボランティアの皆様との交流が大事だと思っています。これによって地域はそ

れぞれ違ってしますので、活動の仕方は色々とやっているといます。自分の地域だけでなくすごく勉強になるといます。

- ・時代の変化を感じる今日この頃です。街中で子どもたちの姿を見ることが少なくなり、SNS等で室内での活動が多くなり、子どもたちが見えません。薬物乱用についても危機感を覚えます。これまで以上に行政、福祉等のタテ、ヨコの連携が必要と感じます。行政の財政事情もあるでしょうが、財政的支援もお願いしたい。
- ・犯罪（刑法犯認知件数）は減っている。保護司活動も過渡期であり、少年補導員はもともと過渡期だと感じる。今の時期は「静かに」「暖かく」少年を見守る大人たちが必要だと思う。穏やかな活動で十分だと思う。
- ・最近少年補導員（少年警察ボランティア）のなり手が少なく、活動はボランティアという事だが、真面目にやればやる程、仕事やプライベートな時間をあてて（犠牲にして）ボランティアをしている感があるので、なり手の確保・継続のためにも、何かしらの恩恵があっても良いのでは…と思う。
- ・ボランティアの定年制について、自県では70才定年ですが、後継者不足で大変な思いでお願いしていますが、現在25名位定員割れです。 ・1つは75才までの定年延長可 ・1つは各地域での定員数の見直し ・また少年補導員制度の見直し いずれも何十年も前に作ったままやり続けていますが、時代に合わせて見直し検討して変えてゆく必要があると思います。
- ・表彰基準の明確化（活動にも欠席が多い為⇒不推薦にして、次の活動年数の人を推薦しても表彰対象にならない、活動年数のみの推薦基準か???⇒会全体のコミュニケーションが取れない）
- ・指導委員の高齢化が進み、若い人との世代交代に繋がっていないのが実情で、定員の不足も生じている。他人との関わり合うのが嫌なのか、疎ましく思っているのか我が道を行くという人が多く見受けられます。ボランティア活動の意義をもう一度見直す時期がきているのかも知れません。
- ・平成12年から20年以上少年補導に関わって参りました。当時は喫煙、シンナー、万引き、自転車の二人乗り等、目に見える事で注意したり、子供たちと話し合っただけで参りました。当時の元気(?)な子供達は声をかければ挨拶もしてくれましたし今では親になり当時はなんて話してくれるのです。今は子供達を取り巻く環境も変化し目に見えないインターネットの普及した今はネットが絡んだ事案が増えています。一補導員が係わることは難しくなる一方ですが、子供達と同様の情報モラル教育で学ぶことが必要不可欠な時代だと思っています。長期間に渡り子供たちと関わる事ができた事は本当に感謝しております。未来を担う青少年が道を迷わない様に幸せな毎日を過ごせることを願っております
- ・72才で事業から引退し、やっとボランティアに専念する事ができました。小学生への規範意識の醸成活動や、中学生との社会活動への参加等、まだやりたい事がありました。ながい年月、仲間達、地域の方々、署の警察の方々、有難うございました。
- ・私たちはあくまで警察ボランティアのため、今の範囲での補導活動で良いかと思っています。
- ・PTAという団体さえ消滅しかけているご時勢、次に続く警察ボランティアさんを見つけ

ることが難しくなってきました。仕事現役を退く年齢も高くなり、後任者問題が大きな課題となっています。

- ・コロナの早い終息で、以前の様な活動が出来る事を願っている。
- ・毎月学校訪問を実施し、学校内においての生徒達の様子、現在起っている問題等を話していただいて、少年指導員、警察協働員で問題を共有することで、地域での活動に生かし問題の芽を早期に解決する様に努めているのですが、学校によっては個人情報守秘義務があり、情報を生かす事が出来ず、活動の限界を感じる事があります。また街頭補導を定期的実施しているのですが、子供を見かける事がなく、子供達の行動も、スマートフォンを使った SNS 等に変化してきているので、非行の形態も変わってきていると感じています。これからは、これらの変化に対応した活動に私達が変わっていく必要性を感じています。
- ・少年補導員が高齢化しているので、若い世代にも入ってほしいと思う。
- ・活動以外に組織運営に難しい面がある
- ・所属している自治体の補導員はメンバーも含め区割りが小さく、補導活動の中で、様々なローカル情報の共有に意味があると感じているが、少年警察ボランティアでは担当地区が広いのでローカル性はうすくなると思う。また地域の情報共有として、年に 1~2 回程は、署の補導担当や少年担当の方の話聞く「会議」のようなものが必要と思う。今までのそういった機会ではパワーポイントやスライドを使った一般的な少年非行の情報共有又は講義となっていて、当該地域の現状とはほど遠いと感じる。
- ・家庭にあっても外にあっても、そこに自分の居場所があるということは、元気に活動できる源になると思うのです。あたり前であること、ごく普通であることの毎日の生活を送ることができるご家庭の青少年たちが殆どとは思いますが、こうした環境でない一握りの青少年たちのお役にたてるボランティア活動に結びついていく地域の一員でありたいと願い、志を同じにする少年警察ボランティアの方々と署のご指導をいただきながら青少年の健全育成のため「地域の縁の下の力もち」として携わらせていただきたいと存じます。
- ・最近、不良少年らしき子供達を、あまり見かけない町に住んで活動をしております。夜、子供達が歩いているとすれば塾の帰り道くらいでしょうか。それでも夜 9 時頃を過ぎれば親が車でお送り迎えしているので歩く子供は少ないと思います。しかし、深夜家を出歩く子供達がいるかもしれない、と思い、夜 10 時~12 時頃の間にはパトロール（車で）しても良いのではないかと思います。
- ・現状の子ども達の様子が想像出来なくなっています。我が子も成長し学校からもはなれて多年になるので、直接子ども達の話しが聞ける場があると良いのですが。又、インターネット（SNS）での事例などが聞けることが出来ると、活動の方法に結びつくのではないかと思います。
- ・我々警察署の少年補導員、市の少年補導員、学校の少年補導員と私の知る限り、3 種の少年補導員が存在しますが、横のつながりはなく、各団体独自の活動をしています。本当に子供たちの安心、安全な地域作りを目指すなら、名目だけの少年補導員に何の価値があるのか、早急に連携できる対策が必要と考えます。我々のボランティア活動は会費

を支払い、満足に帽子やユニフォームも支給されない予算の無い状況で活動をしています。今後、少年警察ボランティアの裾野を拡げるのであれば制度の見直しが急務と思われます。

- ・後継者不足は深刻であり、私自身の年齢を考えると、この活動、いつ卒業できるのか、将来に不安を感じます。子供達の健全育成を見守る事の大切さをもっと広報してほしいと思います。
- ・定年制を採用しているところは、後任者の確保に苦慮していることは、古くて新しい問題であり、特に、地域における連帯意識が希薄化傾向にある昨今では、一層人材の確保が困難になってきています。もはや、少年警察ボランティアだけの人つながりだけでは、定数の充足には至らないことから、職域や学校・PTA 関係者等への働きかけなど、全国における少年警察ボランティアの裾野の拡大に向けた推奨・参考例をご紹介願えれば幸甚です。
- ・上記と重複するが、活動が社会に理解・周知されていない為なり手がなく、研修に行っても高齢の方も多く、実質的な活動が難しいと思われる。活動時間帯にも関係してくるが、社会に活動自体が広まれば理解も産み出し、年齢層にも幅が出てくるのではないのでしょうか
- ・定年制延長により年々新しく加入してくる人が減っているのが苦慮している。他の県や市で著しく加入率が高い所を紹介してほしい。同時にどのような方法で増やしているのか教えてほしい。なり手不足は今や切実な問題となっている。
- ・より多くのボランティアが生まれるような環境づくりをぜひお願いします
- ・年1回の風営法に関する講習会は毎年内容が同じで新鮮味がない。ただ数字を並べた表を読んでいるにすぎない。Uの項目にある「少年を取り巻く環境」についての講義を受けたい。また、指導員の中には（私も含む）インターネットや繁華街等の情報等について収集したい人もいる。
- ・少年の減少と、公園等での喫煙等を見なくなっている現状から今後の指針が見えない。
- ・補導員のなり手が少なくなっており、みつけるのが大変である。（今の若い方々は、仕事を持っているせいかな…）
- ・少子高齢化が進み地域の間人間関係が希薄化などにより後継者探しが難しくなっている。
- ・1.他地区の活動状況をその都度知らせる方法を検討してほしい 2.少年補導員活動を、各自治体に幅広く広報してもらいたい。
- ・警察庁生活安全局少年課主催の「農業による少年の居場所づくり活動の効果的な実施方策に関する研究会」に平成23年10月～24年3月までの警察庁会議数会と文章、電話等の対応で実例に基づく検討会を行い報告書を作成する。現在も少年補導員会長と居場所作り（野菜）を継続しております。尚会議には全国8名委員参加です。例 自閉症の少年が1年間居場所作りに参加し、お母さんの努力にもよりますが最後の収穫時には津軽三味線をひいてくれる様になり大変明るい少年になりました。
- ・補導をしていれば、少年たちが見てくれるだけで非行の抑止力になってくれると信じて活動しています。警察の方の協力にも感謝しています。何ごとも経験です。経験してみても、はじめて実態がみえてきます。補導員としてどれだけ役に立っているかは分かりませんが、

色々な環境で育った少年たちが少しでも暮らしやすいように助言できればと思っています。

- ・今を生きる子供達の事をいちばん理解しているのが学校の教員だと思います。地域の学校の先生とのコミュニケーションを多く取りたいと思います。
- ・警察ボランティアの老齢化の為、若返りが必要
- ・子供の教育は本来、親が見るべきと考えるものの家庭教育まで教員にまかせる。役をお願いすれば忙しい、その親（ジジ、ババ）に言えば「忙しいからしかたがないと！」と諦めムード。今後、どうしたら良いのか？我家も同じ様なものですが！
- ・補導員の役割（活動）等を PR していく必要があると思います。例えば、自治会や学校に対して啓発
- ・警察改革で駐在所が交番に統合され警察官との交流が極端に減った 警察官によって対応の差がありすぎる。
- ・少子高齢化により、少年ボランティアの数が減っていくのが見えて来ている今、少なくとも少年指導委員の方だけでも活動範囲を署内ではなく、県内全域にして、近くの市町村で足りなくなった時に手助けできるように法の改正をして、活動範囲の拡大をしてほしいです。数年で減っていくのが解っているのなら、やってほしいと思います。
- ・夜間見守り活動中に、実際には少年に「声掛け」するには、かなりの勇気が必要だと、ためらってしまいます。
- ・若い方の会員参加が少なく、会員確保がむずかしい状況です。現在の社会状況をふまえて、新規会員の年齢制限をなくして、70 才以上でも加入できるのではないかと思います。・会の存続を考えると、ボランティアという考を変えて、手当金を増やして、参加意欲をあげなければと思います。
- ・補導員という活動が、古くなってしまったような気がする。本当に警察関係者から必要とされているのか。世の中から必要とされているかと最近よく感じます。
- ・教員の働き方改革により以前も少なかった先生との街頭補導が全くなくなってしまった。先生からの学校の様子と私たち地域からの情報を交換しながらパトロールすることはとても有意義だったので、現在は残念な状況。もっと学校との連携がとれるようにできないだろうかと思っています。

あとがき

少年警察ボランティアのあり方に関する「調査・研究」は、少年警察活動に関わっているボランティアの活動実態、意識等を調査、分析して、少年警察ボランティア活動の適切な推進に資する資料を作成し、提言することを目的として、平成15年3月から第1回の調査を行い、翌平成16年3月に「少年警察ボランティアのあり方に関する調査報告書」として発表されました。

令和5年5月に全少協設立30周年を迎え、同年11月に全少協設立30周年記念少年問題シンポジウムを開催するにあたり、テーマである「これからの少年警察ボランティア活動を考える」の参考資料とするため、非行臨床研究所代表石橋昭良氏のご協力をいただき、令和5年8月から第2回の調査を行い、約20年ぶりに「少年警察ボランティアのあり方に関する調査報告書Ⅱ」としてまとめました。

少年警察ボランティアの皆様の今後の活動を考えるにおいて、参考となれば幸いです。

調査編集委員会

委員長 石橋 昭良

非行臨床研究所代表

全国少年警察ボランティア協会理事

(元文教大学人間科学部教授)

事務局 田中 法昌 (全少協理事長)

柴田 佳幸 (同事務局長)

遠藤 功 (同業務課長)

渡邊 美奈子 (同総務課主任)

アンケート集計 日本印刷株式会社